

上小阪遺跡第3次発掘調査報告書

1998

財団法人 東大阪市文化財協会

序

東大阪市は、古代より大和と並び日本の中核地域であった河内の一画を占めています。市内からは現在、旧石器時代以降各時代の遺跡が約130箇所発見されており、まさに埋蔵文化財の宝庫と言えます。なかでも、市域の北半に往時存在した河内湖の縁辺には、瓜生堂遺跡・鬼虎川遺跡など弥生時代の大集落として全国的にも著名な遺跡が存在し、当時の繁栄の様子を今に示しています。

江戸時代以降は商都大阪の近郊農村地帯でしたが、早くから開発が進み現在市域の大半は住宅・工場などが立ち並びまとまった水田地帯はわずかとなり、市街化が進んでおります。

今回報告する上小阪遺跡第3次調査は、下水管埋設工事にともない実施したものであります。

上小阪遺跡は、瓜生堂遺跡の南西に位置する遺跡です。若江寺や織田信長もたびたび訪れた若江城が存在した地として知られる若江遺跡のすぐ西に所在しています。今まで余り調査が実施されておらず、まだ不明な点が多い遺跡です。この度の調査では、弥生時代後期を中心に本遺跡の実態を知ることのできる新たな発見がありました。また、土器を中心とした出土品は当時の人々の生活を偲ばせてくれるものであります。

本書が、地域の歴史を解明するうえでお役に立てれば幸いであります。また文化財の学習資料となりますことを願っております。

最後になりましたが、調査および整理を実施するうえに多大なご協力をいたしました東大阪市教育委員会、東大阪市下水道部をはじめとする関係機関、方々に心より謝意を表します。

財団法人 東大阪市文化財協会

理事長 日吉 亘

例 言

1. 本書は東大阪市若江西新町4～5丁目内において東大阪市下水道部が計画した平成元年度公共下水道第26工区管渠築造工事に伴う、上小阪遺跡第3次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪市下水道部の委託を受けて実施した。
3. 主要な現地調査は、平成1年6月5日から9月25日まで福永信雄を担当として実施した。
4. 本書は附編のIV章を除き、執筆と編集は福永が行なった。IV章の花粉分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。観察表については、整理部嘱託の津田美智子が作成した。
5. 遺構写真は福永が撮影し、遺物写真撮影はG・Fプロに委託した。
6. 現地調査実施にあたっては、東大阪市下水道部・高宮土木株式会社の方々から多大なご協力いただいた。記して謝意を表する。
7. 遺構実測図は調査に参加した全員で作成し、整図を津田が担当した。遺物実測図は、喜多裕子・竹田博美・西川美奈子が、整図および観察表の作成は津田が行なった。なお、本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。
8. 遺構実測図の水準高はT.P値を用いた。
9. 調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの協力を得た。心より謝意を表する。（敬称省略・順不同）
西谷真治・金閥恕・山内紀嗣・金原正明
10. 現地調査および整理作業には、下記の方々の参加を得た。また、平成9年度の整理作業は整理部が担当した。
今池広樹・西浦完次・大内術・西村千恵・田中和佳子・喜多裕子・小原久美代・西山由美・百合藤厚子・井上容子・渡辺法子・西川美奈子・竹田博美・藤井文子・西村慶子・八田美代子

本文目次

I.はじめ	1
II.位置と環境	2
1.位置	2
2.環境	2
III.調査概要	4
1.層序	4
2.遺構	9
弥生時代の遺構	9
奈良時代の遺構	10
3.出土遺物	15
遺構出土遺物	15
包含層出土遺物	21
古墳時代以降の遺物	24
IV.附編 上小阪遺跡第3次調査で採取した土壤の花粉分析報告	40
V.まとめ	44

挿図目次

第1図 既往の調査と本報告調査地点位置図	1
第2図 周辺遺跡分布図	4
第3図 調査地区割図	5
第4図 土層断面図	6
第5図 土層断面図	7
第6図 土層断面図	8
第7図 検出遺構実測図	11
第8図 検出遺構実測図	12
第9図 検出遺構実測図	13
第10図 検出遺構実測図	14
第11図 溝出土弥生土器実測図	16
第12図 溝出土弥生土器実測図	17
第13図 溝出土弥生土器実測図	18
第14図 落ち込み出土弥生土器実測図	19
第15図 落ち込み出土弥生土器実測図	20
第16図 土壌・ピット出土弥生土器実測図	21

第17図	包含層出土弥生土器実測図	22
第18図	包含層出土赤生土器実測図	23
第19図	包含層出土赤生土器実測図	24
第20図	土師器・須恵器・瓦器・砥石実測図	24
第21図	弥生時代石製品実測図	24
第22図	上小阪遺跡第3次調査の溝5の断面図および花粉分析試料の採取位置	41
第23図	上小阪遺跡第3次調査の溝5埋積物の花粉化石群集の分布図	43

表 目 次

表1	出土遺物観察表	25
	弥生土器	25
	弥生時代石製品	39
	土師器・須恵器・石製品	39
表2	上小阪遺跡第3次調査の溝5埋積物の花粉分析結果	42

図 版 目 次

図版1	調査地 上. E～I地区作業風景（西より）下. 第1～3トレンチ完掘状況（西より）
図版2	土層断面 上. 第1～2トレンチ北壁断面（南東より）下. 第1～2トレンチ北壁断面（南東より）
図版3	土層断面 上. 第3トレンチ落ち込み2北壁断面（南西より）下. 第2トレンチ北壁断面（東より）
図版4	土層断面 上. 第2トレンチ北壁断面ピット26検出状況（南より）下. 第2トレンチ北壁断面土壤18検出状況（南より）
図版5	土層断面 上. A地区北壁断面（東より）下. B地区北壁断面（南より）
図版6	土層断面 上. D地区北壁断面（南西より）下. D地区北壁断面ピット検出状況（南より）
図版7	土層断面 上. D・E地区北壁断面（西より）下. D・E地区北壁断面（南より）
図版8	土層断面 上. F地区北壁断面（南より）下. G地区北壁断面（南より）
図版9	土層断面 上. H・I地区北壁断面溝5検出状況（南より）下. J地区北壁断面（東より）
図版10	土層断面 上. J地区北壁断面（南より）下. J・K地区北壁断面落ち込み4検出状況（南より）
図版11	土層断面 上. K・L地区北壁断面（南より）下. L地区東壁断面（西より）
図版12	遺構（弥生・奈良時代） 上. 第1～3トレンチ第1遺構面遺構検出状況全景（東より） 下. 第1～2トレンチ溝3検出状況（北より）
図版13	遺構（弥生・奈良時代） 上. 第1トレンチ土壤10検出状況（南より）下. 第2・3トレン

チ第1遺構面土壤17・18、第2遺構面土壤16検出状況（南西より）

- 図版14 遺構（弥生時代） 上. 第1トレンチ溝4検出状況（南より）下. 第2トレンチ第2遺構面土壤19・20、ピット26検出状況（南東より）
- 図版15 遺構（弥生時代） 上. 第3トレンチ落ち込み2検出状況（東より）下. 第3トレンチ落ち込み2弥生土器出土状況状況（南より）
- 図版16 遺構（弥生時代） 上. A地区土壤1検出状況（南より）下. B地区溝2弥生土器出土状況（南より）
- 図版17 遺構（弥生時代） 上. E～I地区第1遺構面遺構検出状況（西より）下. E地区第2遺構面溝12、ピット40・41検出状況（南より）
- 図版18 遺構（弥生時代） 上. F地区第1遺構面土壤28、ピット34～38検出状況（南より）下. F地区第1遺構面溝11検出状況（南西より）
- 図版19 遺構（弥生時代） 上. F地区第2遺構面土壤29、溝13・14検出状況（南より）下. F地区第2遺構面ピット42・43、土壤50、溝14検出状況（南東より）
- 図版20 遺構（弥生時代） 上. G地区第1遺構面土壤26・27、ピット32・33検出状況（南より）下. F・G地区第1遺構面ピット34～38、土壤28、溝10検出状況（南西より）
- 図版21 遺構（弥生時代） 上. G地区第2遺構面土壤32、ピット47、溝15検出状況（南より）下. G・H地区第1遺構面ピット30・31、土壤23～25、溝9検出状況（南西より）
- 図版22 遺構（弥生時代） 上. H地区第1遺構面溝5他検出状況（南西より）下. H地区第1遺構面溝5弥生土器出土状況（南より）
- 図版23 調査状況 上. H地区第1遺構面溝5調査風景（南より）下. K・L地区調査状況（南西より）
- 図版24 溝1・2・5・11・12出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（13・15）下. 壺（1～12・14・16・17・20）
- 図版25 溝2・5・11・12出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（18・19・21・22・35）下. 鉢（35～40）
- 図版26 溝2・5・11・12・14出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（43・57・82）下. 壺（42・44～56・59～61）
- 図版27 溝2・4・5・11・12出土遺物（弥生時代後期） 上. 底部（62・63・66～73・76・77・79～81）下. 壺蓋（64・65・74・75・78・83・100）
- 図版28 溝2・4・5・11・12・14出土遺物（弥生時代後期） 上. 高杯（84～86・88～94）下. 高杯（95～97・99・105）
- 図版29 溝5、落ち込み1出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（108・110・111・117・118）下.
- 図版30 落ち込み1出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（106・107・112～114・116・119～121）器台（109・122）壺蓋（134）下. 壺（123・125～133）
- 図版31 落ち込み1出土遺物（弥生時代後期） 上. 高杯（136～138・140～145）鉢（146・147）手焰形土器（153）下. 鉢（149～151）底部（154～173）
- 図版32 溝2・5、落ち込み1・2出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（15・111・118）壺（43・82）鉢（148）下. 高杯（135）鉢（148・152）器台（139）
- 図版33 土壤5・6・7・9・27、ピット39出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（174～182）底部（193～195）下. 壺（183～185）高杯（196～201）底部（186～192）

- 図版34 包含層出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（202～214・219・220）下. 壺（221～230）鉢（234）壺蓋（247・248）
- 図版35 包含層出土遺物（弥生時代後期） 上. 底部（231～233・235～245）下. 壺（249～251）高杯（2252・253・256～259）鉢（254・255）
- 図版36 包含層出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（260～263・269～271）壺（264～266）高杯（285～287）器台（267）壺蓋（284）底部（272・274・275・277～283）下. 壺（288）壺（290）鉢（268）高杯（274）底部（276・289・291～293）
- 図版37 包含層出土遺物（弥生時代後期） 上. 壺（295～300・302）底部（301・307～309）下. 壺（303～306）高杯（313～317）底部（310～312）
- 図版38 包含層出土遺物（弥生時代後期・古墳～中世・石器） 上. 土師器皿（318・319）杯蓋（320）杯身（321・322）下. 砥石（323）石錘（324）石皿（325）
- 図版39 花粉化石
- 図版40 花粉化石

I. はじめに

1. 既往の調査と調査に至る経過

上小阪遺跡は、昭和38年に下水管埋設工事の際に弥生土器などが出土したことから遺跡の存在が知られた。その後、現在までに調査の規模は小さいが昭和49年に上小阪配水場の西側で試掘調査（第1次調査、今回の調査地点より800m付近）昭和50年（第2次調査、今回の調査地点の北に隣接）に上水管埋設工事等に伴う調査が実施されている。いずれも小規模なもので東大阪市内の他の遺跡に比べて、あまり実態のわかっていない遺跡といえる。

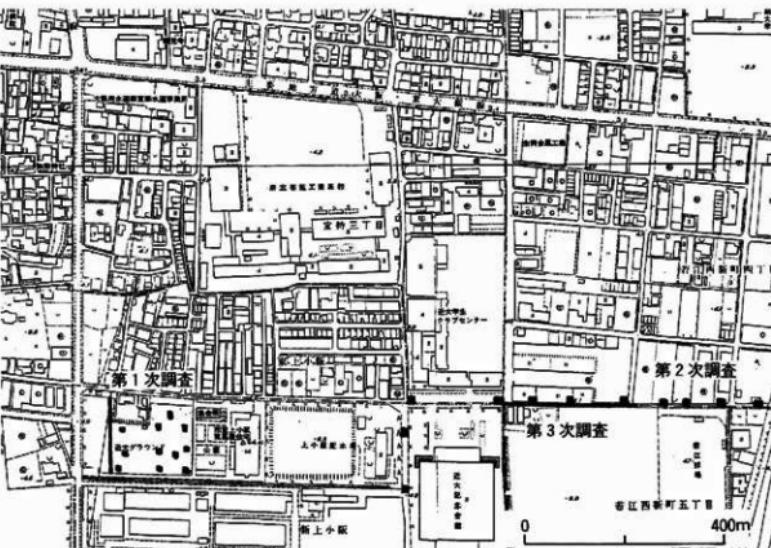
第1次調査では、現地表下2mから弥生時代後期の土器、1.5mから奈良時代から平安時代前期の須恵器・土師器、1mから鎌倉時代の瓦器・土師器が出土している。遺溝は未検出である。

第2次調査は、上水管埋設予定地内に平均 1.5×4 mのトレンチを5箇所設定して行なわれた。遺溝はやはり未検出であるが、現地表下1mから弥生時代後期の土器多量と0.8mより須恵器・土師器が少量出土している。

今回報告する第3次調査は、東大阪市下水道部が計画した下水管埋設工事に先立ち東大阪市教育委員会が、試掘調査を行ったところ弥生土器などが検出されたため発掘調査を実施することとなった。工事予定地ではあるが、試掘で遺物が出土していない地点は、立会調査を実施することとなった。発掘調査および工事に並行して行う立会調査は、本協会が東大阪市教育委員会の指導のもとに東大阪市下水道部の委託を受けて行なった。

注1 下村晴文「上小阪遺跡試掘調査報告書」東大阪市遺跡保護調査会 1975年

注2 勝田邦夫「上小阪・瓜生堂・新家遺跡調査報告書」東大阪市遺跡保護調査会 1976年



第1図 既往の調査と本報告調査地点位置図

2. 位置と環境

位置

上小阪遺跡は、旧大和川の自然堤防上に営まれた弥生時代後期の集落跡である。北に若江北遺跡、東に山賀遺跡、南に小若江遺跡などが存在し、弥生から古墳時代の遺跡密集地の一角を占める。

調査地周辺は旧河内国のはば中心にあたり河内平野の一画に位置する。近鉄奈良線八戸の里駅の南約1.3km、東大阪市上小阪と若江西新町4・5丁目を中心とした地（第1図）に所在する。遺跡の中心は上小阪配水場付近に想定されている。遺跡の範囲内には近畿大学学生クラブセンターや近畿大学記念館などが所在する。今回の調査地は、近畿大学グラウンドの北に隣接する市道の中央部分で、近畿大学記念館北東の四つ角から中央環状線までの間である。

環境

河内平野は縄文時代前期の海進により河内湾と呼ばれる海が侵入していた。この時代の終わり河内潟に変化し、本遺跡付近はその南縁部にあたる。弥生時代には河内湖に変わる。潟や湖には旧大和川の前身となる川が南から北に向かって幾筋も流れ込んでいた。湖の岸辺にはこれらの川によって運ばれた土砂によって低湿な地が広がり、流れ込む川は自然堤防や三角州を作り、背後には後背湿地が形成された。

人間活動の痕跡は、新家遺跡（本遺跡の北約2km）や山賀遺跡（南西に隣接）で少量の晩期中頃の土器が出土し、この頃から認められる。しかし、活動が本格化するのは弥生時代前期である。後背湿地が稻作の耕作地として当初から利用されたことが、若江北遺跡（北東に隣接）で検出された前期初頭の水田址や土器などの遺物から窺える。

当時の居住地は、自然堤防や三角州上などの微高地を選んで営まれた。山賀遺跡や北約0.5kmに所在する瓜生堂遺跡は河内湖南辺に営まれた中期の大規模集落であり、河内における中心的な集落の一つである。後の時代の遺跡のありようから見て大規模集落は単に農耕のみでは存在が困難で、背景には、川や湖を利用した水運がもたらす富などが考えられている。北東約0.5kmに所在する巨摩庵寺遺跡から出土した「貨泉」はその証拠の一つと考えられている。

本遺跡は、現在の玉串川ないし楠根川の前身と考えられる川が形成した南北に延びる自然堤防上、標高5m前後に立地する。山賀遺跡と瓜生堂遺跡の間にあって前・中期の大規模な集落が営まれた様子は知られない。弥生時代後期は、瓜生堂遺跡では南の巨摩庵寺遺跡（北東約0.7km）への集落の移動が明らかになっている。本遺跡の出現は、山賀遺跡に隣接しているため同遺跡から派生したとも考えられるが、瓜生堂遺跡の動きと関連する可能性もある。

古墳時代は、前代から続く水運と関係するものとして北約1.5kmの西岩田遺跡（前期）から山陽・山陰地方の土器や、大型の倉庫と考えられる掘立柱建物（中期前半）などがある。中期後半と後期は仁徳記「堀江」の開削が伝えるように瀬戸内海への出口が狭められたためか、水運を窺わせる資料は今のところ知られていない。中期後半から後期にかけて小型低方墳が、巨摩庵寺遺跡（中期後半）と山賀遺跡（後期前半）で検出されている。この種の古墳は、集落に隣接して営まれるために付近に同時期の集落が存在すると予想されるが明らかでない。

飛鳥・奈良時代は、奈良時代後期の集落の一端が瓜生堂遺跡で、山賀遺跡と友井東遺跡（南約1km）で水田址が検出されている。寺院址は、若江遺跡（東約1km）で飛鳥時代後期創建の若江寺と白鳳時代に創建された西都庵寺（南東約1km）が存在する。

その後、中世まで若江遺跡に存在した河内守護所（若江城）が示すように河内の中心部として位置し、栄えた地域ということができる。



第2図 周辺遺跡分布図

II. 調査概要

今回の調査対象地は、下水管埋設とともにうるもので幅約1.5m、深さ約1.2m、長さ約270mの調査区であった。（一部立会調査区間を含む）調査は立会調査部分を含めて、盛土を機械を用いて掘削した後、床土以下を土留め用の鋼矢板を立て込み人力で掘り下げ行なった。

本遺跡は、過去に2回の調査が実施されているが、いずれも小規模なもので弥生時代後期の遺物包含層などが知られるに過ぎなかった。

今回の調査は、下水管埋設に伴う幅の狭い調査区であるが連続して長いトレンチを東西に設定するのと同じであるため、従前の調査では今一つ明らかでなかった遺構の存在や遺物包含層の広がりを確認することを主目的に実施した。

調査は、東大阪市若江西新町4丁目と5丁目を画す下水管埋設予定の道路上を平成1年6月5日～平成1年9月24日の間に実施した。本調査は、8月29日まで実施した。その後、8月31日からは、事前の試掘調査により遺物・遺構ともほとんど確認できないことが予想された中央環状線に隣接した範囲を、土層の観察と遺物などが出土した際には、本調査に切り替えることに備えて立会調査を実施した。調査面積は250m²（一部立会区間を含む）である。

調査地区的名称は、5m間隔で西から第1～3トレンチ、以西はA～L地区と仮称して進めた。

なお、今回は下水管埋設工事に伴う事前調査のため管が埋められるGL-1.2mまでを調査対象とし、以下については破壊から免れるため調査を実施していない。したがって、弥生時代中期以前の状況については明らかにできなかった。以下、層序・遺構の順に概要を記す。

1. 層序

調査地全域にわたって上部と調査地の西側に、既設の水道管などの埋設管が存在した。このため上部の耕土・床土などが攪乱を受けていた。したがって今回確認できた層序は、床土の下部以下である。土層観察用のアゼは、前述のように東西の層序を確認することを中心としたため、幅約50cmほどを北側の矢板に添って残した。調査範囲の幅が狭いため残りの部分をまず平面調査した後、アゼ部分の平面調査を実施した。残念なことに、土層観察用のアゼを調査範囲の関係で鋼矢板沿いに残すしかなかったため、雨あるいは湧水により土層観察以前に崩落した部分があった。

土層の詳細については、土層断面図（第4～6図）を参照されたい。

第1層 茶褐色砂混じり粘土（床土） 厚さ4cm以上で既設管による攪乱を免れた場所にだけ部分的に残る。上面で耕作に伴うと考えられる溝・杭を検出。

第2層 赤褐色～茶褐色シルト質粘土 厚さ8cm前後で須恵器・土師器少量含む。中央環状線より西100m付近より以西に存在。奈良時代と考えられる第1遺構面のベースになる層である。

須恵器は、6世紀後半のものも見られ、古墳時代後期から奈良時代の包含層と考えられる。

第3層 深茶褐色シルト質粘土 厚さ10cm前後で弥生土器少量含む。調査区西半に部分的に存在。

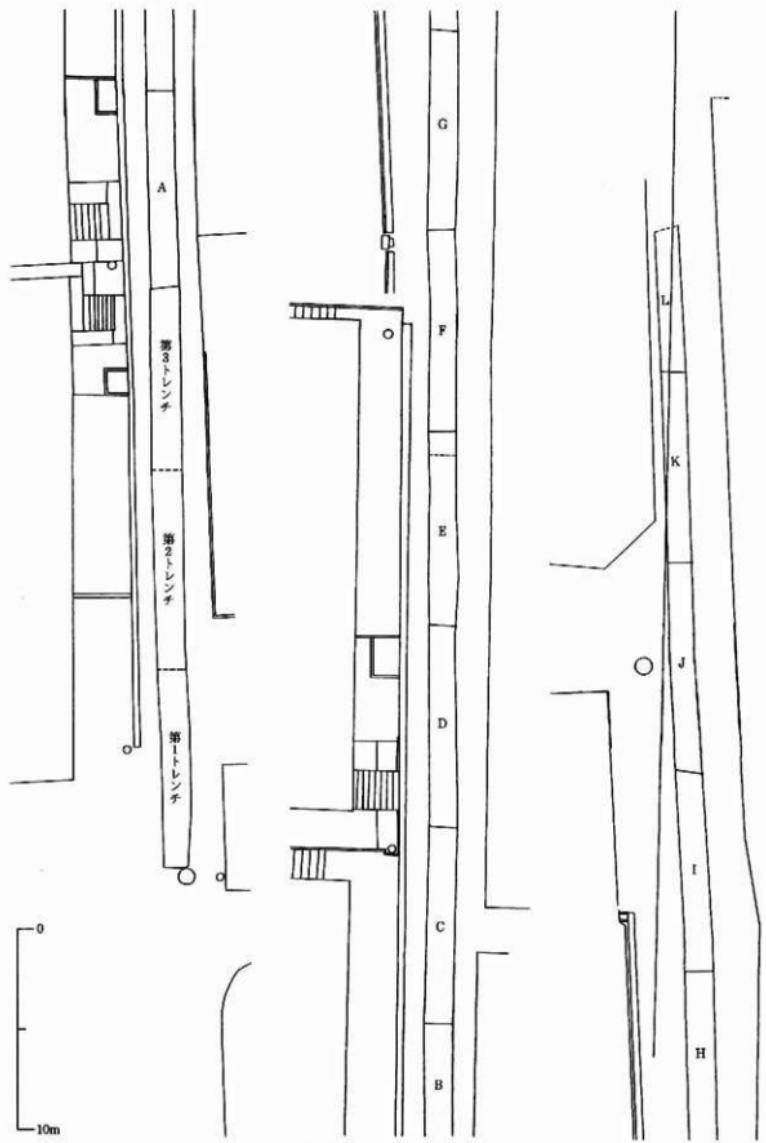
弥生時代後期の包含層。

第4層 黄灰色粘土 厚さ10cm前後で調査区の西半の中央付近に存在。上面で弥生時代後期の溝・柱穴など検出。弥生時代後期の土器少量含む。

第5層 黄褐色シルト質粘土から黄褐色粘土 厚さ20～30cmで調査区全体にひろがる。上面で弥生時代後期の溝・柱穴・土壤など検出。

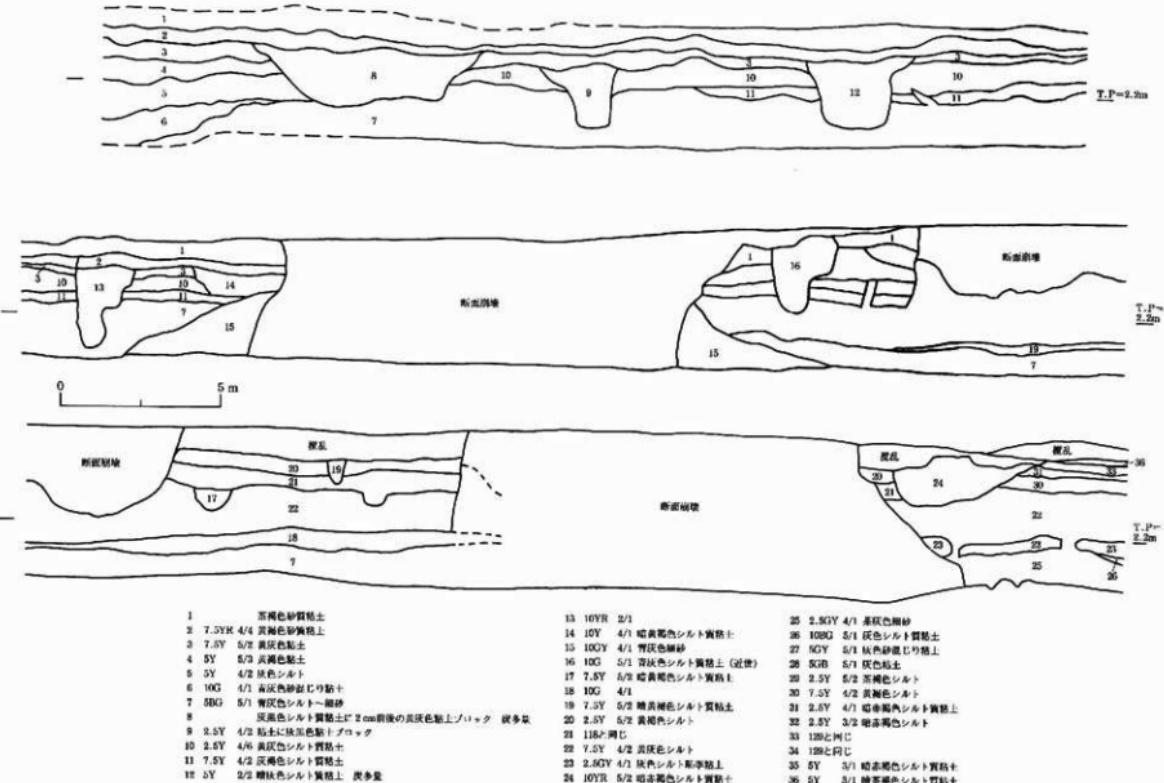
第6層 黄灰色シルト～細砂 厚さ60cm前後で以下、砂・粘土の互層となる。

以下については前述のように埋設管の深さの関係で未調査。

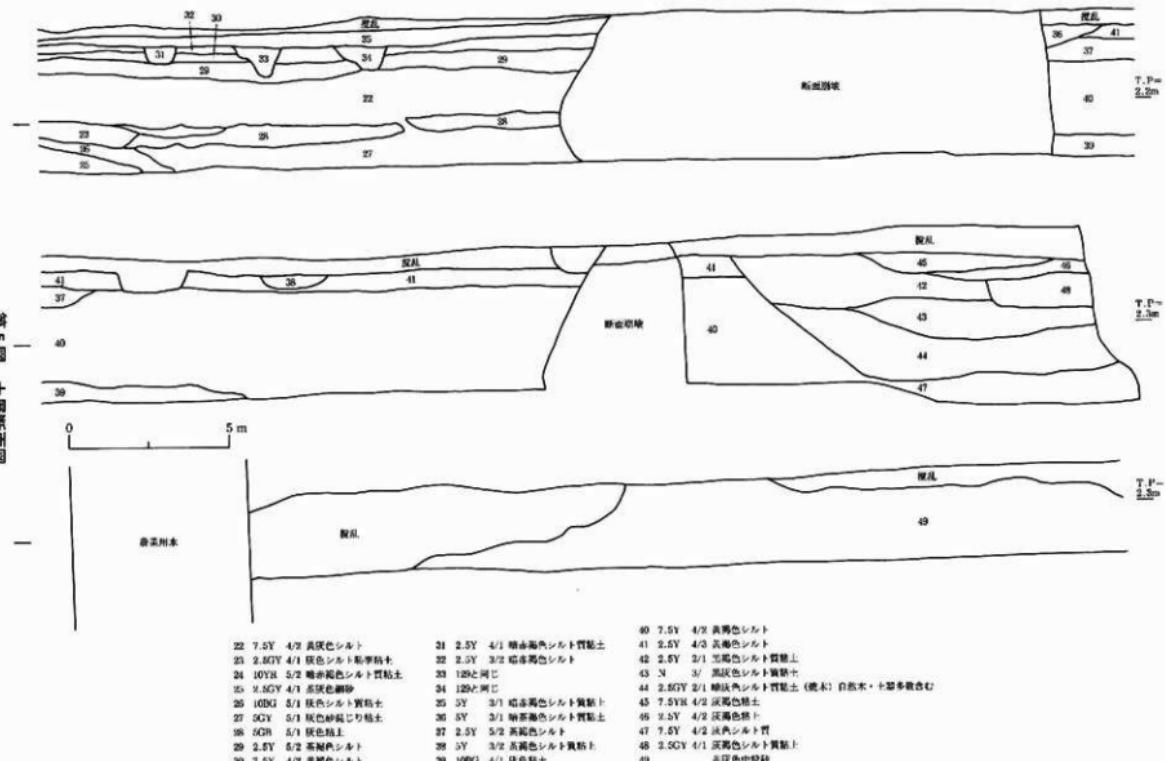


第3図 調査地区割図

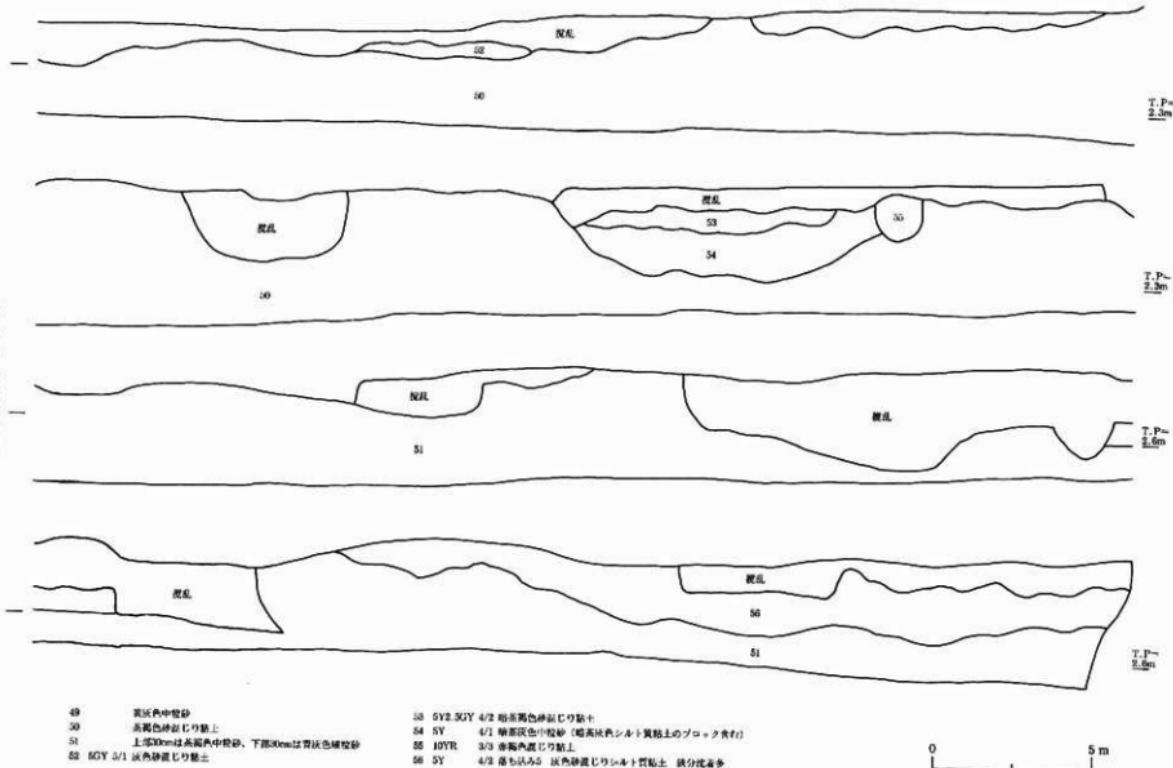
第9図 土層断面図



第5図 土層断面図



第6図 土層断面図



2. 遺構

今回検出した遺構は、先に層序の項で触れたように近世以降の溝・杭（耕作に伴う）奈良時代と考えられる土壌・弥生時代後期の土壌・柱穴・溝などである。以下、古い時期の遺構から順に記述するが近世以降の耕作に伴うものの説明は割愛する。

弥生時代後期の遺構「第1 遺構面」

今回の調査で検出した遺構の中心を占める。調査区の中央付近E～H地区で、2面の遺構面を確認したがそれ以外は1面である。以下、主要な溝について説明する。

溝

8条の溝を確認した。調査範囲が狭いため土壌の可能性も残る。

溝2

B地区で検出した。幅1.8m、深さ0.4mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。東半分を農業用水路で破壊されている。堆積土は、黄褐色砂質粘土1層である。弥生土器が出土した。

溝4

第1トレンチで検出した。幅1m、深さ0.1mで断面形は皿状を呈し、南西から北東に走る溝である。堆積土は、黄褐色シルト質粘土である。遺物は出土していない。

溝5

H・I地区の境で検出した。今回の調査で検出した中では最大の規模をもつ。幅2.5m以上、深さ1mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。東半分を農業用水路で破壊されている。堆積土は、7層に別れる。各層より弥生土器が出土したが下層（遺物観察表では3層）と上層（遺物観察表では1層）からの出土が多かった。

溝11

F地区で検出した。上層の遺構である。幅0.7m、深さ0.4mで断面形はコの字状を呈し、南から北に走る。南端は調査区外に延び堆積土は、1層で暗灰色シルト質粘土である。弥生土器が出土した。

溝12

E地区で検出した。上層の遺構である。幅1.2m、深さ0.15mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。堆積土は、黄褐色シルト質粘土である。弥生土器が出土した。

土壌

調査範囲の関係で今回は土壌としたが、溝や柱穴になるものも存在する可能性が高い。

土壌5

E地区で土壌6の東に隣接して検出した。平面形が三角形を呈すると思われる。溝になる可能性もある。最大長辺1.5m以上、最小短辺0.7mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、黒褐色シルト質粘土1層である。弥生土器が出土した。

土壌6

E地区で検出した。平面形が梢円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.6m以上、最小短辺1.5mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、オリーブ黒色シルト質粘土1層である。弥生土器が出土した。

土壌7

D地区で検出した。平面形が梢円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.5m以上、最小短辺1.4mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、灰オリーブ色粗粒砂混じりシルト質粘土1層である。弥生土器が出土した。

土壤9

D地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、最大長辺1.5m以上、最小短辺0.45mで最大の深さは、0.15mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、暗褐色粗粒砂混じりシルト質粘土1層である。弥生土器が出土した。

土壤29

F地区で検出した。平面形が橢円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.3m以上、最小短辺0.2mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、暗オリーブ褐色シルト質粘土1層である。弥生土器が出土した。

土壤31

F地区で検出した。上面遺構である。平面形が橢円形を呈する。最大長辺0.4m、最小短辺0.2mで最大の深さは、0.4mである。断面形は、2段のU字状を呈す。堆積土は、青灰色シルト質粘土1層である。土壤としたが、断面形から柱穴の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。

ピット

掘立柱建物の柱穴と考えられるピットを第1・2トレンチとD～H地区で検出した。柱根の遺存は認められなかった。

長軸0.6m短軸0.4m平面形が橢円形を呈し、深さ0.6m堆積土が黒色シルト質粘土のピット70が最大で、大半は径0.2m前後の平面形が円ないし橢円形を呈し、深さ約0.2m程度のものである。堆積土は、暗黄褐色シルト質粘土などである。G・H地区では上下2面の遺構面とも確認された。

調査範囲の関係で建物の規模は復元できない。

落ち込み

形態が今一つ不明なため、落ち込みとした遺構を5個所で確認した。この中には、自然の窪地に堆積した包含層の可能性のあるものも存在する。

落ち込み1

B地区で検出した。幅5m、深さ0.7mで断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、7層に別れる。各層より弥生土器が出土したが下層の黄褐色砂混じり粘土・黄灰色砂質粘土と上層の黄褐色シルト・茶褐色シルトからの出土が多かった。

落ち込み2

第3トレンチで検出した。幅2.1m、深さ0.5mで断面形は逆台形を呈し堆積土は、下層より暗緑灰色シルト混じり粘土、灰色シルト混じり粘土、明黄褐色細砂の3層に別れる。弥生土器が出土した。

これらの遺構は、調査区西端の第1トレンチから中央環状線の西約110m付近のJ地区付近まで存在する。この付近が集落の一画にあたると考えられる。特に、第1・2トレンチとD～H地区遺構の密度も高いことからこの付近が集落の中心部分に近いところと言えるであろう。

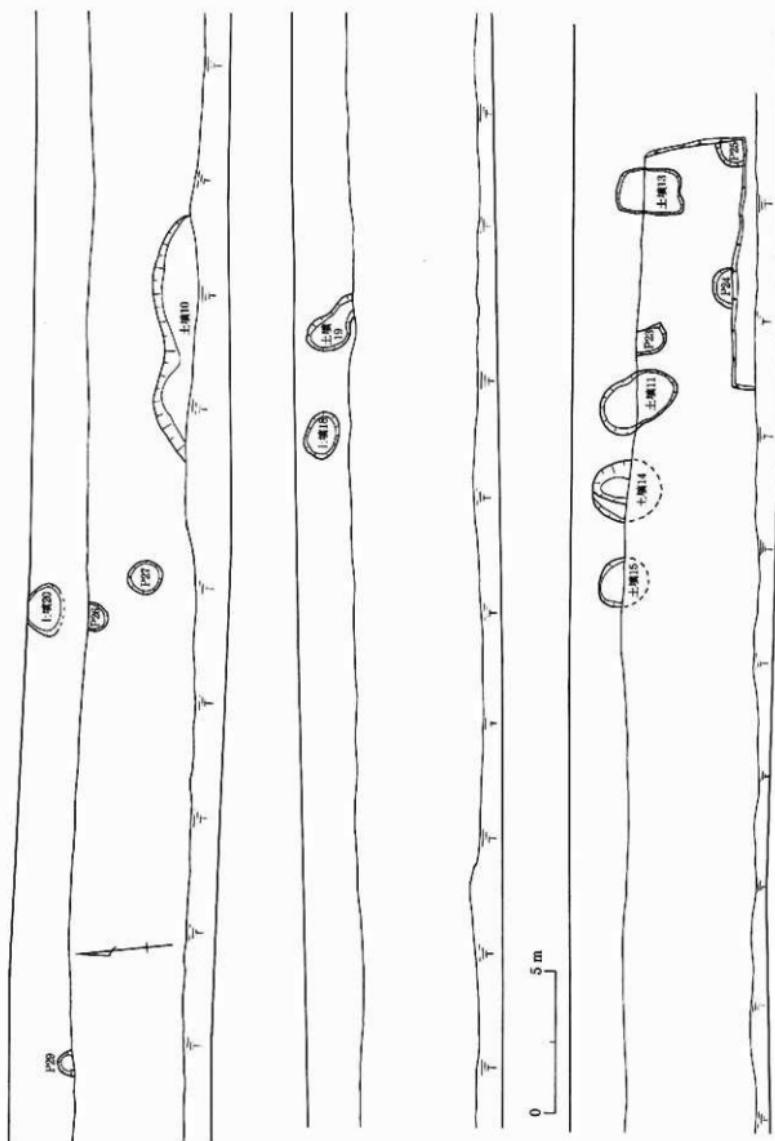
奈良時代の遺構「第2遺構面」

第1トレンチ～B地区付近の約20mの間に土壤が散漫に存在する。

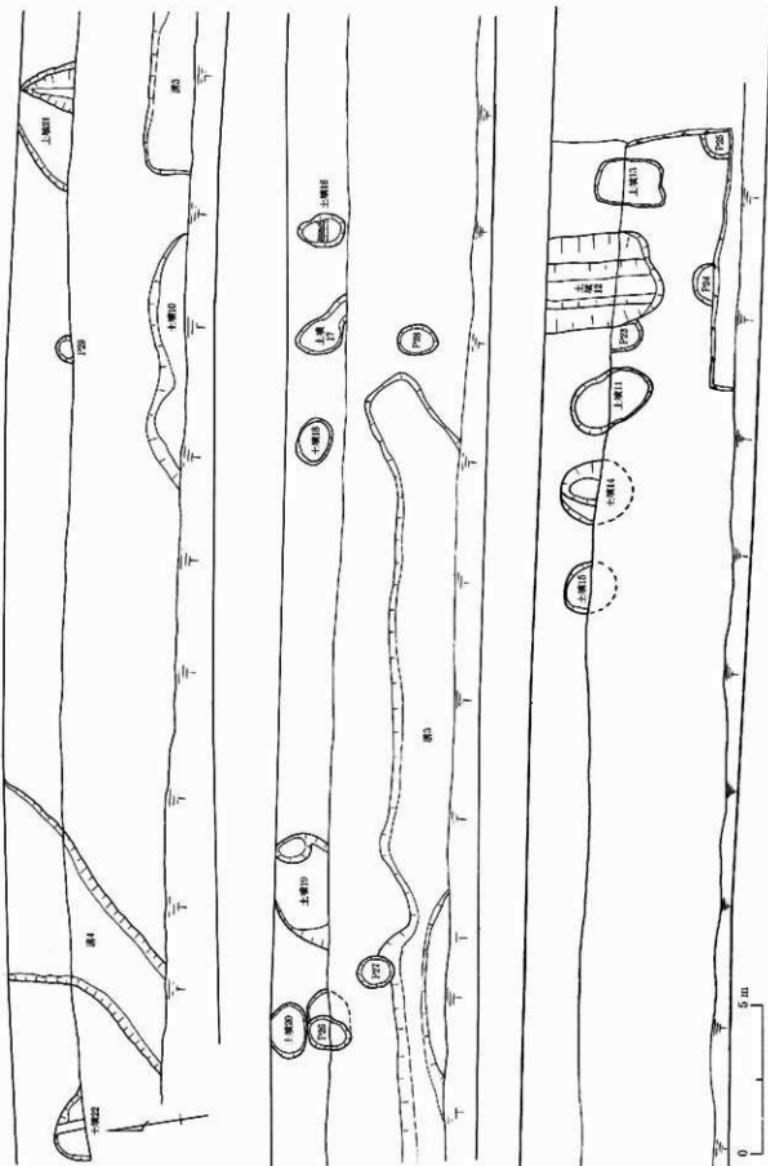
土壤

長軸40cm前後、短軸30cm前後、深さ20cm前後のものが多い。遺構内堆積土は、すべて灰色シルトである。土壤内より遺物はほとんど出土しなかった。土壤の上部は、直上に末土が存在することから後世に削平されたものと考えられる。

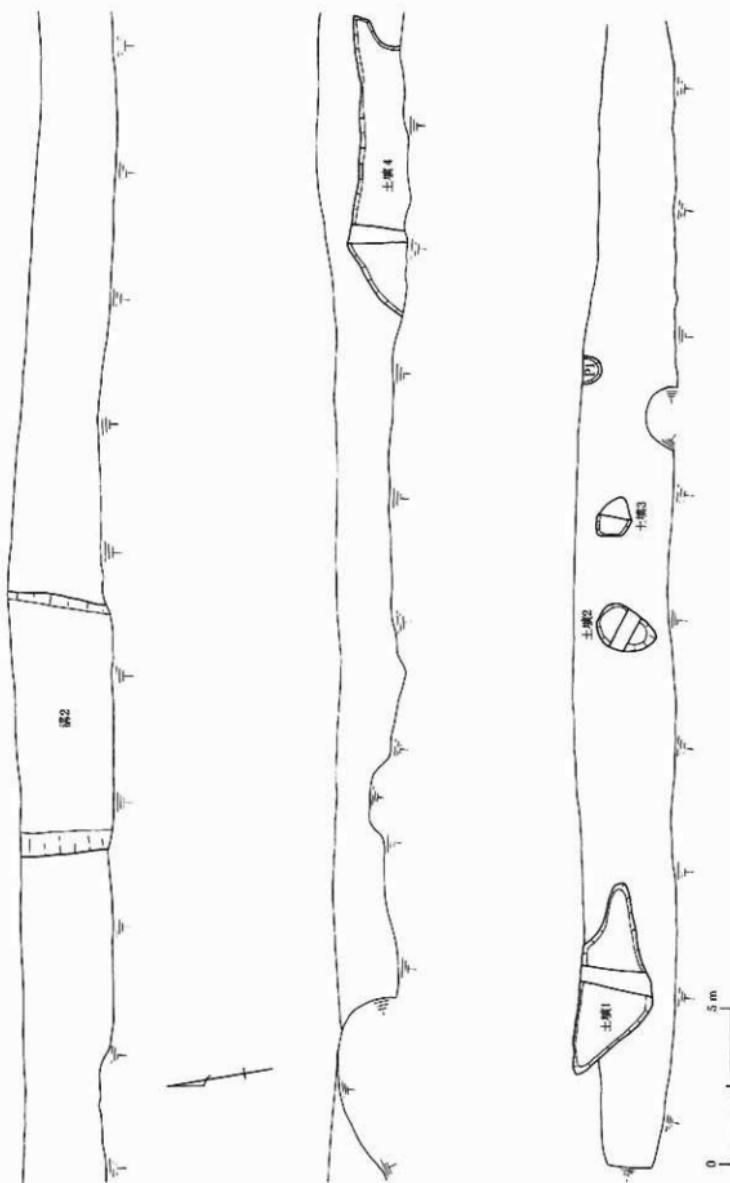
遺構が密集しておらず、遺物もほとんど認められないことから今回の集落の縁辺にあたると考えられる。おそらくこの時代の集落は、今回の調査地の西側に存在するものと思われる。



第7図 検出構造実測図



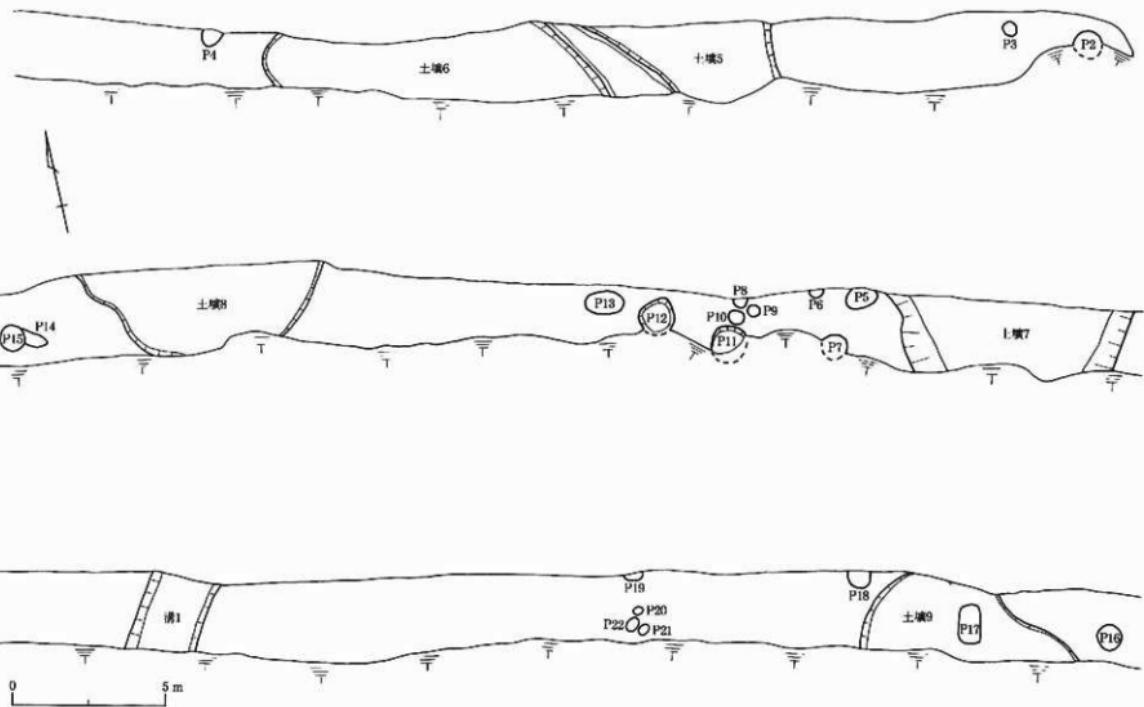
第8図 検出構造実測図



第9図 検出遺構実測図

第10図 畦田断面図

— 14 —



3. 出土遺物

今回の調査では、コンテナ20個分の弥生時代後期から近代までの遺物が出土した。出土した遺物の大半は、弥生時代後期の土器でコンテナ19個分である。他に、少量の須恵器・土師器・瓦器・石器などが見られるが細片が多い。近代の遺物は割愛し、中世以前の遺物について古い時期から遺構・包含層の順に、小破片であっても可能なものの（口縁部・底部）は全て図化し説明する。

なお、本文中では概要を記すこととし、個々の遺物の詳細については観察表を参照されたい。また、弥生土器のうち生駒西麓産と報告するものは、胎土に角閃石を含み茶褐色を呈するものである。これ以外の土器の中には、本遺跡で作られたものや、他地域で生産されたものも含まれると思われるが識別が困難であるため一括した。

遺構出土遺物

弥生土器〔第11～16図、図版24～33〕

溝・落ち込み・土壤・ピットから出土しているが、溝から出土したものが多い。出土した器種は壺・長頸壺・台付鉢・鉢・手培形土器・壺・甕蓋・高杯である。

溝出土土器

最も規模の大きかった溝5を中心に弥生土器が出土している。以下、図化できた土器の多い順（出土量に比例している）に概説する。

溝5

壺A（2点）・C（3点）・D（1点）G（1点）、鉢B（2点）、甕B（7点）・C（10点）、大型壺A（1点）、高杯B（2点）C（1点）と壺底部（6点）甕底部（4点）高杯脚部（4点）計44点が図化できた。うち生駒西麓産は、20点である。

図15の壺Gや図56の甕Cにみられる受け口状口縁は、生駒山西麓の上六万寺遺跡出土品と共通の要素である。

溝2

壺A（1点）・C（1点）G（2点）、長頸壺B（2点）、台付鉢（1点）、鉢B（2点）、手培形土器（1点）、甕B（4点）C（4点）、高杯B（2点）小型甕（1点）、甕蓋（1点）と壺体部（1点）壺底部（3点）甕底部（1点）高杯脚部（2点）計29点が図化できた。うち生駒西麓産は、14点である。

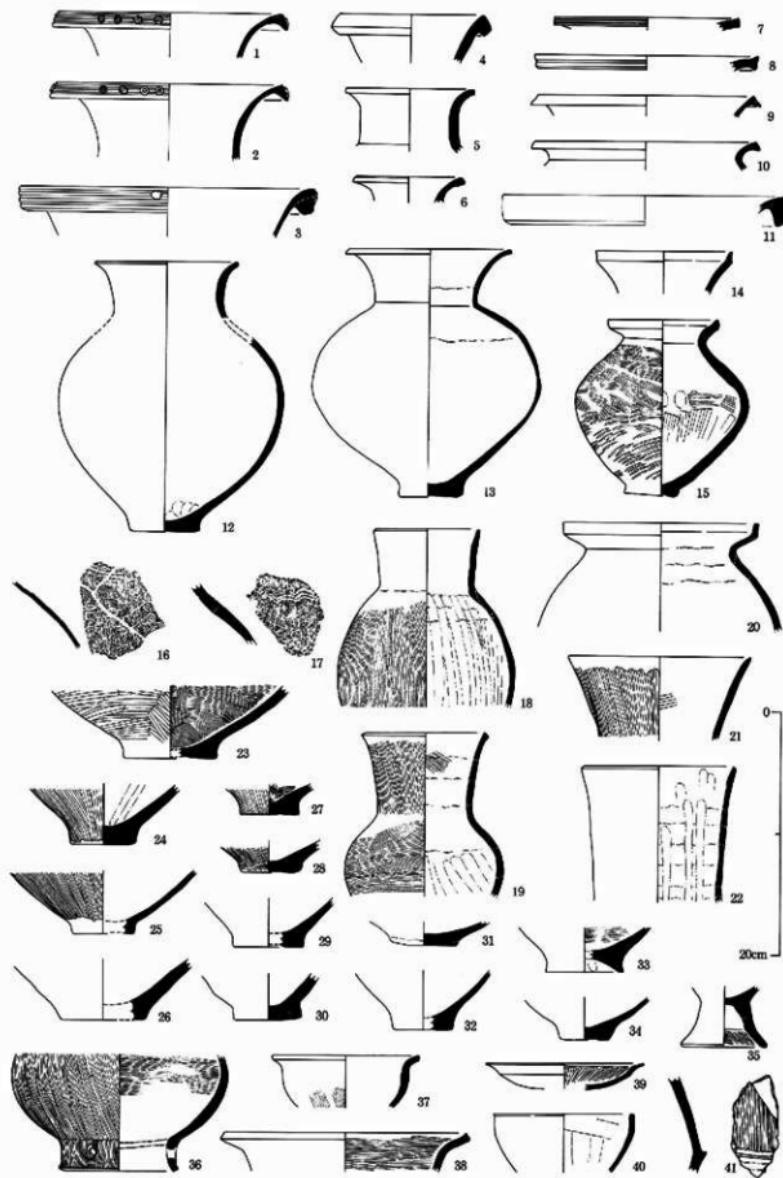
図20のような受け口状口縁の壺Gが存在する。また、図105のような円盤充填の手法を用いた高杯の脚部も残存している。図82の小型甕は、生駒西麓産で大きさから実用品というよりも祭祀用の土器と考えておきたい。図41の手培形土器は、体部の小破片であるが広範囲の地域で見られるものであり注意しておきたい。図83の甕蓋や図36の台付鉢もこの時期としては類例の少ないものである。

溝11

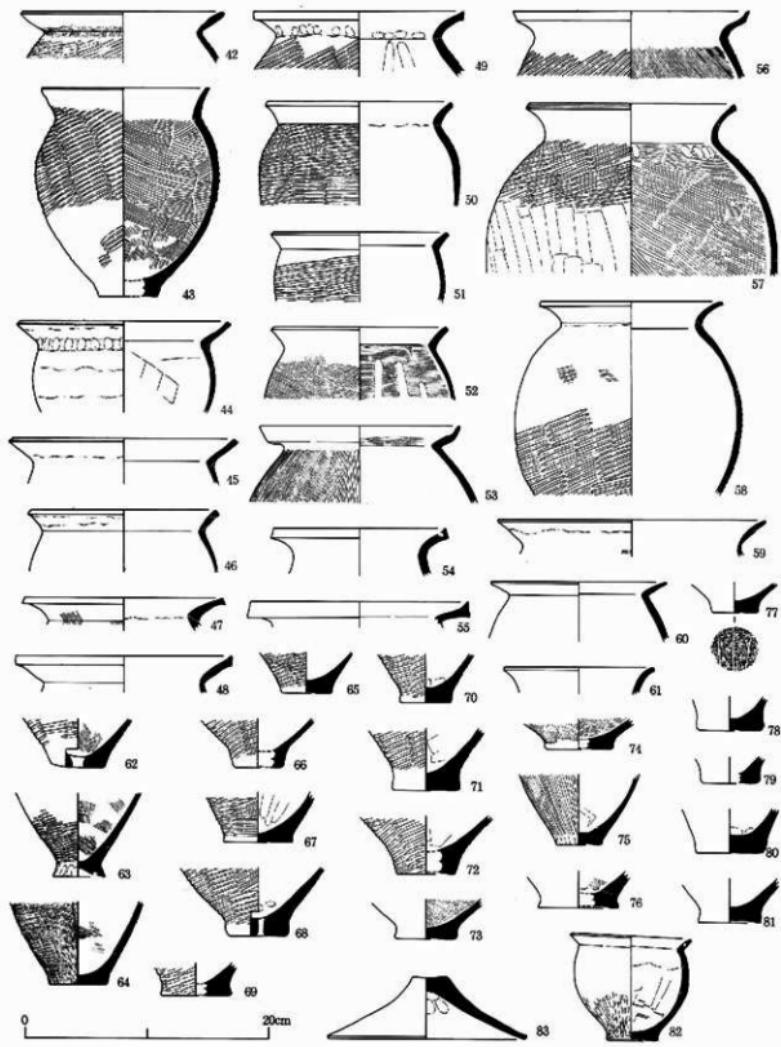
壺A（2点）・C（1点）、長頸壺B（2点）、甕C（4点）、高杯B（3点）と壺体部（1点）壺底部（2点）甕底部（1点）高杯脚部（3点）の計19点が図化できた。うち生駒西麓産は、8点である。壺体部（図16）の外側には櫛描き文および、ヘラ描沈線と竹管文の組み合わせにより渦文が描かれている。

溝12

壺A（1点）・C（1点）、台付鉢（1点）、甕B（1点）C（1点）、高杯B（1点）と壺底部（1点）高杯脚部（1点）計8点が図化できた。うち生駒西麓産は、4点である。



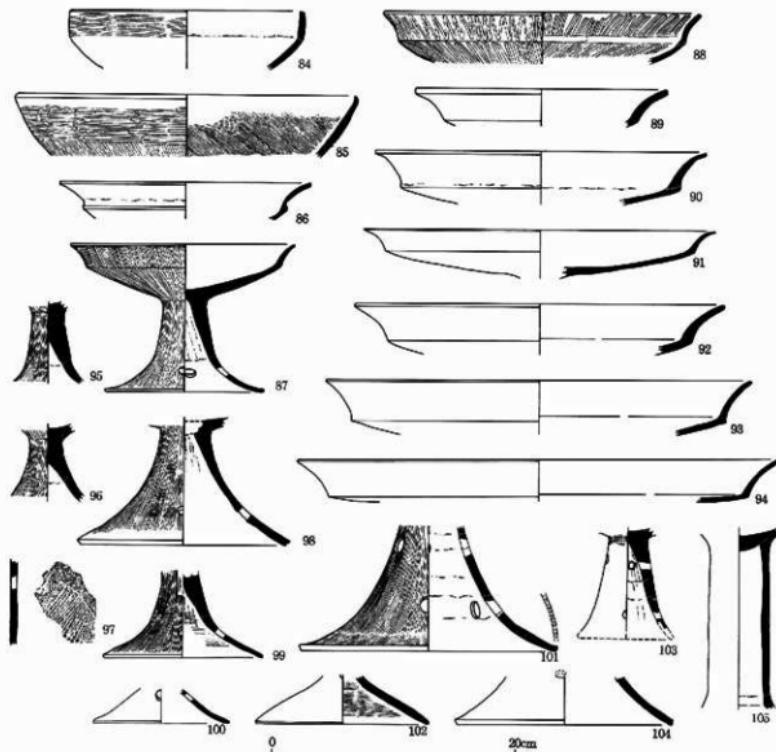
第11図 溝出土弥生土器実測図



第12図 溝出土弥生土器実測図

その他の溝

溝14から壺B 2点（いずれも生駒西麓産）高杯脚部1点、溝1から壺A 1点（生駒西麓産）、溝4から高杯B 1点と、この時期にしては珍しい木葉底の壺底部1点、溝10から高杯B 1点が出土土器のうちから図化できた。



第13図 溝出土弥生土器実測図

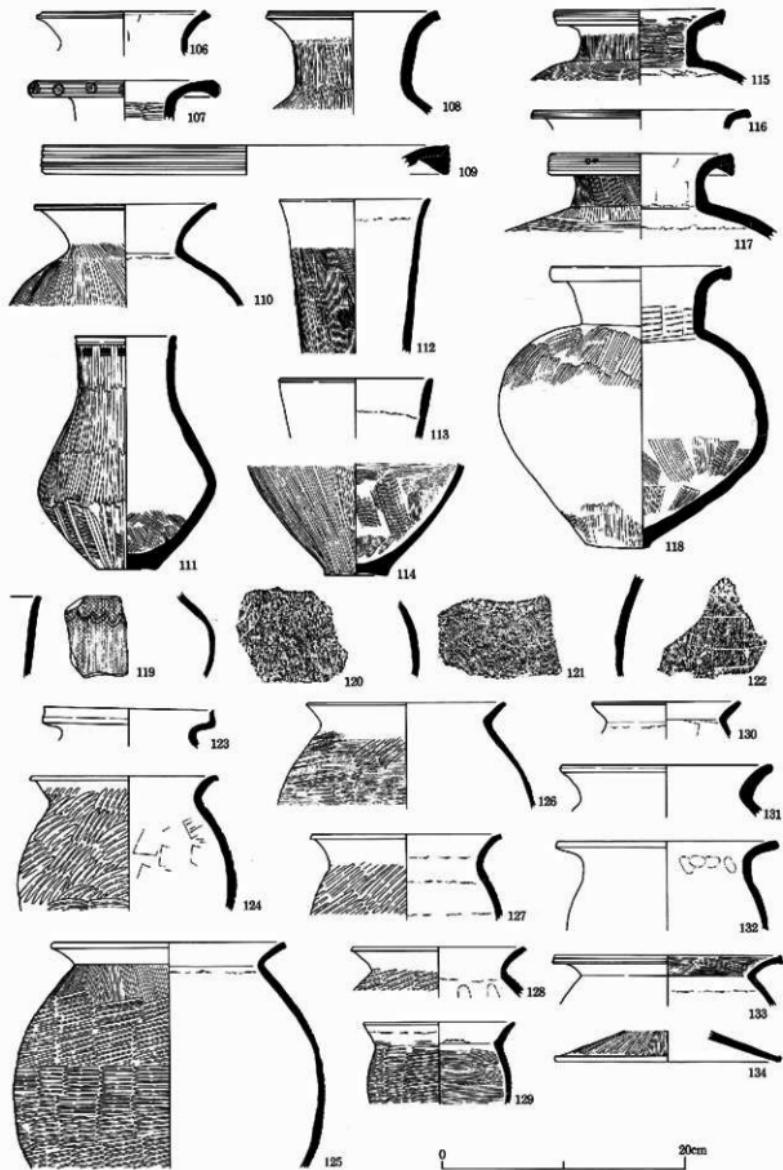
落ち込み出土土器

遺構の項でも述べたが形態が今一つ不明なため、落ち込みとした遺構からも土器が出土した。落ち込みとした5箇所のうちで遺物が出土したのは、落ち込み1と2である。落ち込み2は、体部上位にヘラによる列点文を施す壺体部（1点）を図示できただけで他は、1がほとんどである。

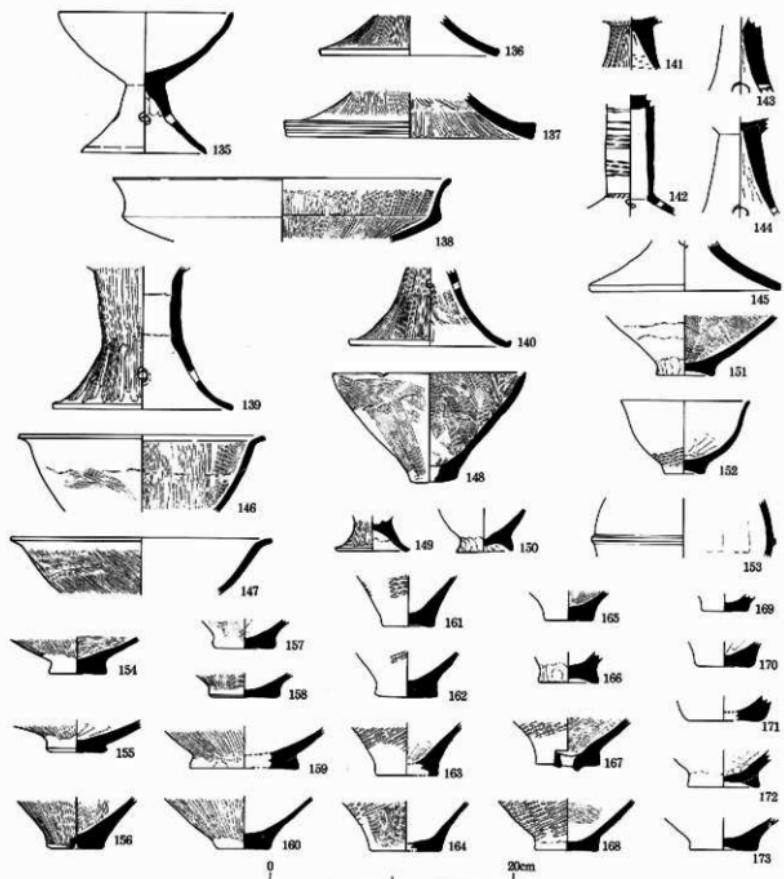
落ち込み1

壺A（2点）・C（4点）・D（3点）、長頸壺B（3点）、鉢B（3点）、台付鉢（1点）、手焙形土器（1点）、器台（1点）、壺B（5点）・C（6点）、壺蓋（1点）、高杯B（1点）C（1点）と壺底部（4点）壺口縁部（1点）壺体部（1点）頸部（1点）壺底部（10点）壺・壺底部（7点）高杯脚部（8点）鉢底部（2点）計66点が図化できた。うち生駒西麓座は、29点である。

図119の長頸壺の口縁部は、外面にヘラによる波状文を描きベンガラと思われる朱彩を施している。祭祀用の土器であろうか。図98の高杯脚部は円盤充填で外面にヘラによる直線文を施す古い要素を残すものである。



第14図 落ち込み出土弥生土器実測図



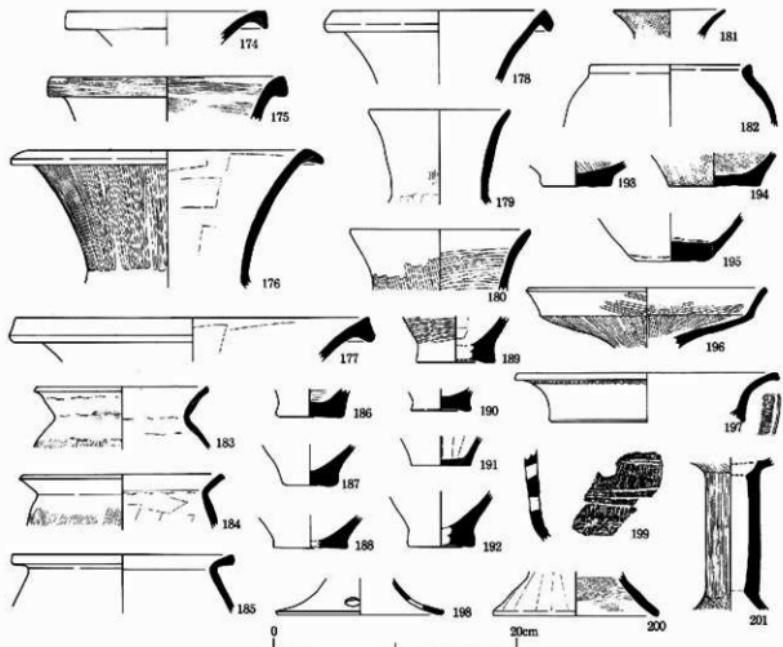
第15図 落ち込み出土弥生土器実測図

土壤・ピット出土土器

土壤・ピット内から出土した弥生土器は、溝や落ち込み出土品に比して多くない。その中で土壤9からは比較的まとまった量が見られる。ピットは同39の1点を図示するにとどまる。

土壤9

壺A（2点）、壺B（2点）、C（1点）、高杯B（2点）と壺底部（1点）、壺底部（4点）、高杯脚部（3点）計15点が図化できた。うち生駒西麓産は、4点である。図197の器台は庄内式に属す。包含層よりこの時期の土器が微量出土しており混入と考えられる。



第16図 土壌・ピット出土弥生土器実測図

土壌 7

壺A（1点）、長頸壺B（2点）と壺底部（1点）計4点が図化できた。生駒西麓産は2点である。

土壌 6

無頸壺B（1点）、壺B（1点）と壺底部（1点）、高杯脚部（1点）計4点が図化できた。生駒西麓産は2点である。

土壌 5

壺A（1点）、長頸壺B（1点）と壺ないし壺底部（1点）計3点が図化できた。うち生駒西麓産は、2点である。

石製品〔第21図、図版38〕

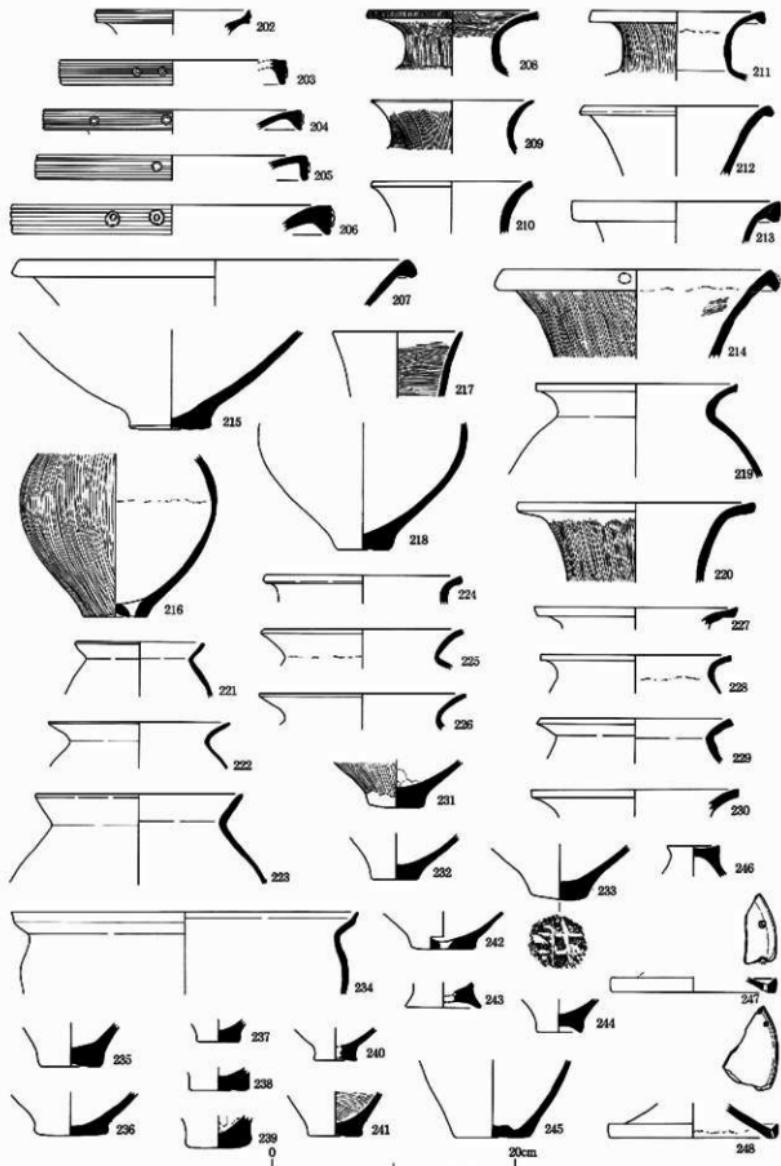
土壌 9 より図325の石皿（砂岩製）、土壌 6 より図324の石錘（砂岩製）が各1点出土している。

包含層出土遺物

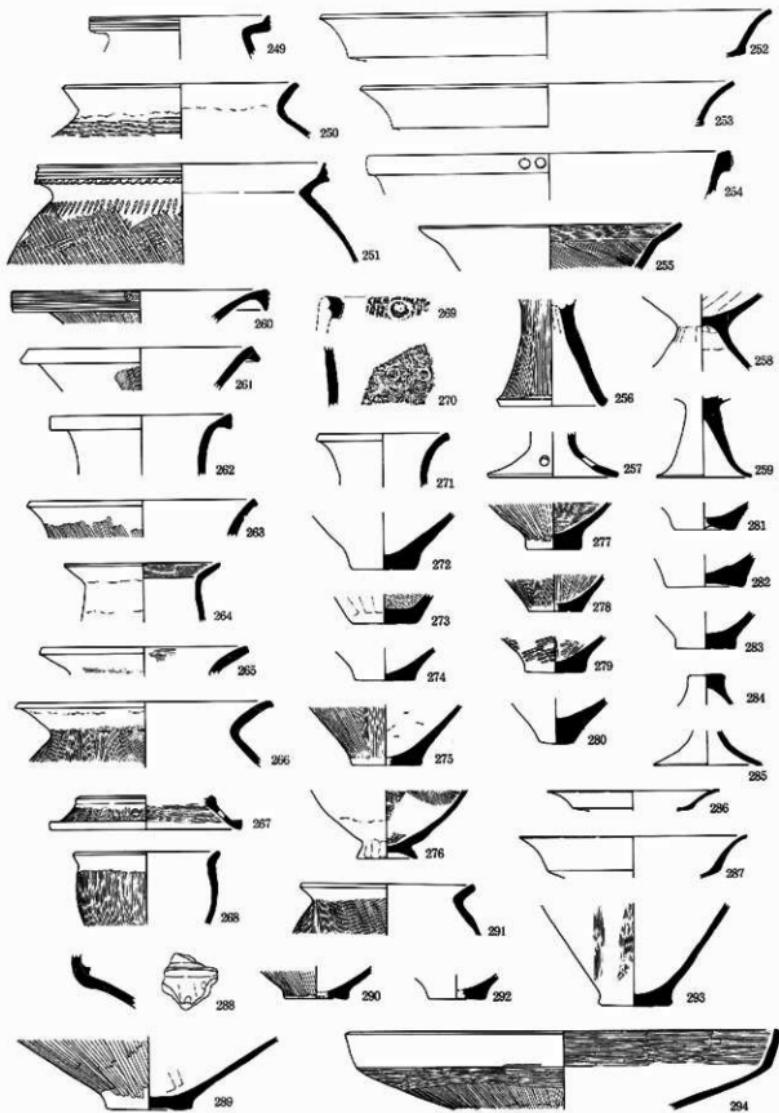
弥生土器〔第17～19図、図版34～37〕

115点を図示した。遺構出土土器とほとんど変わらない器種が出土している。図247・248の壺蓋が古い要素の残存形態と考えられる。図267の器台は庄内式に属すもので、今回出土した弥生土器の中では新しい時期に属す。図233は、底部にヘラにより「井」状の線刻が施されている。また、図251は角閃石を含むが、形態・調整は山麓部に通有のものではなく山陽地方の土器に類似する。

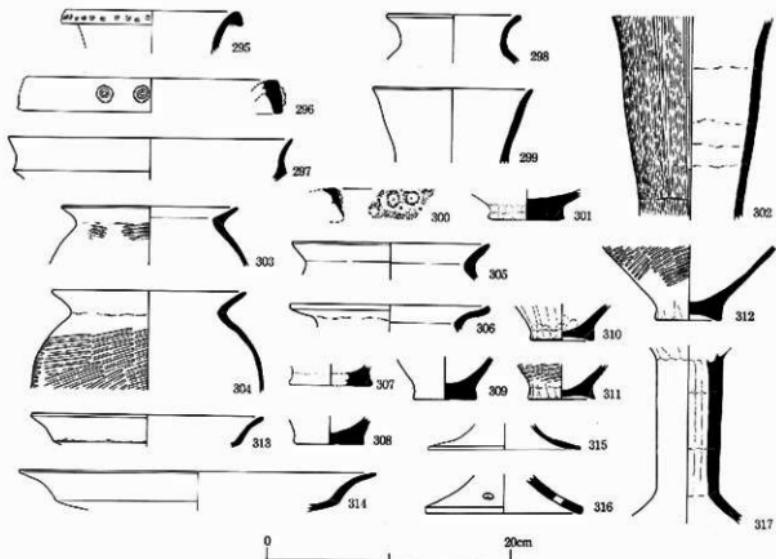
石製品 サヌカイトの割片なども含めて出土していない。



第17図 包含層出土弥生土器実測図



第18図 包含層出土弥生土器実測図



第19図 包含層出土弥生土器実測図

古墳時代以降の遺物〔第20図、図版38〕

第1トレーニチから、F地区にかけて部分的に残存していた包含層や床土などより少量出土している。

土師器

平安時代後期（12世紀代）に属す図318の小皿と図319の大皿を図示できた。

須恵器

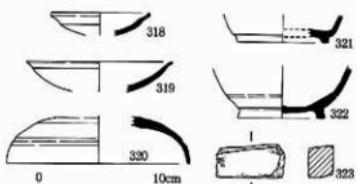
古墳時代後期（6世紀後半）に属す図320の須恵器杯蓋と、奈良時代（8世紀代）に属す図321の杯と図322の壺を図示できた。

瓦器

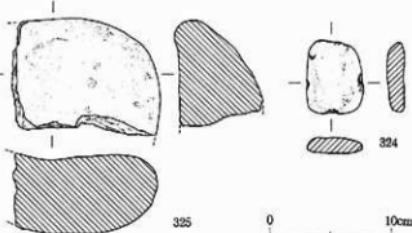
平安時代後期（12世紀代）に属す碗が少量出土しているが細片のため図示できなかった。

砥石

図323の小型品が1点出土した。



第20図 土師器・須恵器・瓦器・砥石実測図



第21図 弥生時代石製品実測図

表1 出土遺物観察表

弥生土器

器 形	番 号	尺 量	形態 の 特徴	技 法 の 特徴	色 調	備 考
弥生土器	1	口 18.4 高 (3.55)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○口縁部底面に、3条の凹線文 と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口縁部、風化のため詳 細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/3、外面上に ぶい褐色5YR7/4	○薄II ○高斑
	2	口 18.4 高 (6.3)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○口縁部底面に、3条の凹線文 と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口縁部、風化のため詳 細不明。	○内面にぶい褐色5 YR7/3、外面上 YR4/4	○薄II
	3	口 23.8 高 (4.0)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○口縁部底面に、3条の凹線文 と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口縁部、ナテ調整を行 う。	○内外面共黃褐色 7.5 YR4/3	○薄I ○生駒西園庭
	4	口 11.8 高 (3.9)	○筒状の口縁部をもち、口縁部 を下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、風化のため詳 細不明。	○内面青褐色2.5YR 5/3、外面上青褐色 10YR3/2	○薄5 ○生駒西園庭
彌C	5	口 10.4 高 (5.1)	○筒状の頸部に外反する口縁部、 口縁部はそのまま頭をもておわ る。	○内外面共に口縁部、風化のため詳 細不明。	○内面にぶい褐色5 YR7/3、外面上に ぶい黄褐色10YR7/4	○薄5 ○内面糊付着
	6	口 8.6 高 (2.1)	○外反する口縁部に、口縁部はそ のまま頭をもっておわる。	○口縁部底面に1条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○内面灰黃褐色10Y R6/2、外面上に ぶい褐色5YR6/3	○薄5 ○生駒西園庭
	7	口 14.8 高 (1.05)	○外反する口縁部に、口縁部はそ のまま頭をもっておわる。	○口縁部底面に1条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○内面灰黃褐色10Y R6/2、外面上に ぶい褐色10YR6/3	○薄5 ○外面糊付着
彌D	8	口 18.2 高 (1.25)	○外反する口縁部に、口縁部は上 下に拡張する。	○口縁部底面に1条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ハケメ調整を行 う。	○内面灰黃褐色10Y R6/2、外面上青褐色 2.5YR5/2	○薄5 ○生駒西園庭
彌A	9	口 17.4 高 (1.7)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○外反する口縁部に1条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○薄12 ○生駒西園庭
	10	口 17.8 高 (2.3)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○内面灰黃褐色10Y R4/2、外面上に ぶい褐色10YR6/3	○薄5 ○生駒西園庭
	11	口 23.0 高 (3.3)	○筒状にひらがる口縁部をもち、 口縁部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○内外面共オーバーブ 褐色2.5YR4/3	○薄2 ○生駒西園庭
彌C	12	口 11.4 高 22.0 底 5.6	○全体に瘤立する頸部をもち、 口縁部は外反する。口縁部はそ のまま頭をもつ。○平底の底部。	○口縁部から全体、風化のため詳細 不明。 ○内外面共にビビ印象、外面上ナゲ調 整を行う。	○内面褐色5YR 6/6、外面上に ぶい褐色5YR7/4	○薄2
	13	口 13.0 高 20.2 底 4	○全体に瘤立する頸部をもち、 口縁部は外反する。口縁部はそ のまま頭をもつ。○平底の底部。	○内外面共に、風化のため詳細不明。	○内面灰色Y6/1、 外面上褐色7.5YR7/6	○薄II
彌G	14	口 11.1 高 (3.5)	○外反する口縁部をもち、口 縁部は延長して上方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナゲ調整 を行う。	○内面にぶい青褐色 10YR5/3、外面上に ぶい黄褐色10YR 6/3	○薄2 ○外面糊付着
	15	口 8.9 高 14.45 底 4.2	○頸部中央が較大となる肩錐型を もつ頸部に、口縁部は外反する。 口縁部は底に拡張する。 ○やや上揚げ度の底部をもつ。	○外側体部下位にタキガ調整、中位 に底部にハケメ調整を施す。 ○内側体部中位にビビ印象とハケメ 調整を行う。	○内外面共灰白色2.5 YR8/1	○薄5 ○光形
彌体部	16			○内面糊工によるナゲ調整のち、 糊部に瘤立する頸部と、円形切管の 組み合わせによる凹線文を施す。 ○内面ナゲ調整を行う。	○にぶい黄褐色 6/3、外面上に ぶい褐色7.5YR5/4	○薄II ○生駒西園庭
	17			○外側ハケメ(?)と内側ハケメのち、 2 底の被状文を施す。 ○内面ナゲ調整を行う。	○内外面灰黃褐色2.5 YR6/2	○薄2
長脚甌 B	18	口 8.2 高 (14.4)	○腹部の裏り出さない体部に、頸部 はやや外傾して立ち上がる。口縁 部がわざかに外傾する。	○外側体部ナゲ調整のち、腹向のハ ケメ(?)と内側ハケメ調整を施す。 ○内面糊工によるビビガ調 整を行う。一部にハケメが残在する。	○内面灰色Y4/1、 外面上褐色2.5YR 6/2	○薄2 ○外面糊付着
	19	口 9.6 高 (13.4)	○丸味をもつ体部に、頸部は外 反する。口縁部はわざかに外 反する。口縁部は肥厚して面 をもつ。	○内外面共に、風化のため詳細不明。	○内面灰色2.5 Y6/3、外面上青 褐色2.5Y7/2	○薄2
彌G	20	口 15.8 高 (8.8)	○丸味をもつ体部に、口縁部は外 反する。口縁部は上方に拡張して 面をもつ。	○内外面共に、風化のため詳細不明。	○にぶい黄褐色10Y R5/3、外面上に ぶい褐色7.5YR5/4	○薄2 ○生駒西園庭

箇 形	番 号	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	色 調	備 考
新生子面 B	21	口 14.8 高 (6.8)	○外傾して立ち上がる唇部に、口縁部はわずかに外反する。	○外側能方向へラミガキ調整、内面ユビナを調整を施す。一部にハケメが残る。	○内外面共灰黄色2.5 Y7/2	○構11 ○生胸西面底
	22	口 12.2 高 (11.2)	○外傾して立ち上がる唇部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面風化のため評細不明。 ○横状工具によるナゲ調整を施す。	○内外面共灰黄色 褐色10YR5/3	○構11 ○生胸西面底
垂底部	23	底 7.4 高 (5.8)	○やや上げ底の底部。	○外面へラミガキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共灰黄色 2.5YR5/2	○構5 ○生胸西面底
	24	底 5.2 高 (5.0)	○平底。	○外面へラミガキ調整、内面ユビナを調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y 5/3、外表面黒色2.5 Y2/1	○構2 ○生胸西面底
底	25	底 4.5 高 (5.2)	○やや上げ底の底部。	○外面へラミガキ調整、内面風化のため評細不明。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外表面黒色2.5 Y2/1	○構5 ○外面運行着
	26	底 6.6 高 (4.9)	○平底。	○内外面共に風化のため評細不明。	○内面駆灰色N3/ 外表面黄色2.5Y 8/3	構12
底	27	底 4.6 高 (3.5)	○底部中央やや上げ底。	○外面へラミガキ調整、内面ハケメ調整を行す。 ○内外面共に磨滅している。	○内外面共に灰 褐色10YR5/4	○構5 ○黒斑
	28	底 4.3 高 (2.6)	○底部中央やや上げ底。	○外面ハケメ調整、内面風化のため評細不明。	○内面にぶい黄 色Y6/3、外表面黃 色5YS/3	○構5 ○生胸西面底 ○黒斑
底	29	底 3.6 高 (4.0)	○底部中央上げ底。	○内外面共に風化のため評細不明。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外表面白色5 Y7/2	○構11
	30	底 5.4 高 (5.85)	○平底。	○内外面体部、ナゲ調整を施す。 ○外側底部、板状工具によるナゲ調整を行なう。	○内外面共灰オリー ブ5YS/2	○構5 ○生胸西面底
底	31	底 5.3 高 (1.9)	○平底。	○内外面共に風化のため評細不明。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外表面灰色 4/1	○構11 ○黒斑
	32	底 4.8 高 (4.85)	○平底。	○内外面共にナゲ調整を施す。	○内外面共灰白色2.5 Y6/2	○構2 ○外面運行着
台付鉢	33	底 6.2 高 (3.6)	○高台状の上げ底をもつ底部。	○外面風化のため評細不明、内面ハ ケメ (10/α) 調整を施す。 ○内面磨滅している。	○内面にぶい黄 色Y6/3、外表面灰 色5Y4/1	○構2
	34	底 3.9 高 (3.5)	○底部中央やや上げ底。	○外面ナゲ調整、内面風化のため評 細不明。	○内面にぶい黄 色7.5 Y10G/3、外表面 灰褐色10YR5/3	○構5
鉢B	35	基 6.8 高 (5.0)	○「ハ」の字型にひらく唇部に、上 方に少し立ち上がる脚柱部から内 傾して尖端部に「づく」。	○内面唇部ハケメ調整を施す以外は、 風化のため評細不明。	○内面駆褐色10YR4/1、 外面上にぶい赤褐色 5YR4/3	○構12 ○生胸西面底 ○黒斑
	36	基 9.0 高 (9.5)	○やや「ハ」の字型にひらく唇部に、 裏体の体部をもつ。唇端部は要をもつ。	○唇端部に円孔を穿する。 ○外面へラミガキ調整、内面唇部上 部に後方のハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄 色2.5Y 6/3、外表面 灰色2.5Y 2/3	○構2
鉢C	37	口 11.8 高 (4.25)	○半球形の体部に、口縁部は外反す る。口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ調整、内面能方向の へラミガキ調整を施す。	○内面にぶい黄 色7.5 Y7/2、外表面 灰色2.5Y 8/3	○構5
	38	口 19.8 高 (3.2)	○半球形の体部に、口縁部は外反す る。口縁端部は面をもつ。	○外面風化のため評細不明、内面能 方向のへラミガキ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 8/3、外表面灰白色 2.5YR8/2	○構5
	39	口 12.8 高 (2.05)	○圓形の体部に、口縁部は外反す る。口縁端部は丸くおさめる。	○外面ナゲ調整、内面能方向のへラ ミガキ調整を施す。	○内面にぶい黄 色10YR5/4、外表面 10YR4/4	○構2 ○生胸西面底
	40	口 11.4 高 (4.8)	○外方にひらく体部に、口縁部は唇 面で直角にする。	○外面風化のため評細不明、内面板 状工具によるナゲ調整を施す。	○内面灰褐色10Y R5/2、外面上にぶい 灰褐色10YR6/2	○構2
手形 土器	41		○外面に凸形が延らされる。	○外面側能方向へラミガキ調整、 内面ハケメ (9/α) を施す。	○内面駆褐色10Y R2/2、外表面灰 色10YR6/2	○構2
要C	42	口 17.0 高 (7.5)	○幅く外折する口縁部ぶ、口縁端 部は丸くおさめる。	○外面ハケメ (8/α) 調整のち、タ キ調整を施す。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/3	○構2 ○生胸西面底
	43	口 13.2 高 17.1 底 4.8	○丸味をもつ体部に、「く」の字形 に外反する口縁部をもつ。	○外面唇部から体部中位タキ調整、 体部中位から下位風化のため評細 不明。 ○内面ハケメ (8/0.8α) 調整、底部 ナゲ調整を施す。	○内外面共2.5YR6/6	○構5
要B	44	口 17.0 高 (7.5)	○丸味をもつ体部に、「く」の字形 に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち、1条の四錐文 をめぐらす。	○外面唇部ユビ直面、体部風化のた め評細不明。 ○内面板状工具によるナゲ調整 を施す。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/3	○構2 ○生胸西面底

基 形	番 号	法 量	形 異 の 特 徴	技 術 の 特 徴	色 調	備 考
脊 生土壁	45	口 18.0 高 (3.7)	○丸柱をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち、1条の凹縫文をめぐらす。	○外表面化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/4、外面上に ぶい黄褐色10YR 5/3	○構2 ○生駒西園庭
	46	口 15.0 高 (5.0)	○丸柱をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち、1条の凹縫文をめぐらす。	○内外面共にナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/3、外面上 ぶい黄褐色10YR 4/2	○構2 ○生駒西園庭
	47	口 16.2 高 (2.7)	○軽く外折する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外表面コナナゲ調整のち、ナゲ調整を施す。 ○内面コナナゲを行う。	○外表面黄褐色10Y R6/2、内面黄褐 色2.5Y7/2	○構3 ○生駒西園庭
	48	口 17.4 高 (2.95)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部はつまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/5	○構5 ○生駒西園庭
妻C	49	口 17.0 高 (5.25)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部はつまみ上げる。	○外表面ユビ底面、体部タキ調整を施す。 ○内面ナゲ調整のち一部板状工具によるとナゲ調整を行う。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/2、外面上に ぶい黄褐色10YR 5/4	○構5 ○生駒西園庭
	50	口 15.0 高 (8.4)	○肝のはるの体部に、口縁部は「く」の字形に外反する。 口縁端部は面をもつ。	○外表面タキを調整、内面風化のため 詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/2、外面上に ぶい黄褐色10YR 5/4	○構2 ○生駒西園庭
	51	口 14.2 高 (5.65)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部は面をもつ。	○外表面体部タキ調整、内面風化のため 詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/3、外面上に ぶい黄褐色10YR 5/4	○構11
妻B	52	口 14.0 高 (5.85)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部は面をもつ。	○外表面方向ハケメ(4.0.8mm)調整、 内面側面方向ハメ(11/α)のち一部板状工具によるナゲ調整を施す。	○外表面黄褐色2.5YR 7/2、外表面黄 色2.5Y6/2	○構2 ○外表面付帯
	53	口 16.2 高 (6.3)	○軽く外折する口縁部に、口縁端部 はつまみ上げる。	○外表面体部方向のハメ調整、内 面側面方向のハメ調整、体部 風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色7.5 YR8/3、外面上に ぶい黄褐色7.5YR8/4	○構14 ○生駒西園庭
	54	口 14.0 高 (3.85)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部はつまみ上げ面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄 褐色7.5YR8/4	○構2 ○生駒西園庭
	55	口 17.6 高 (2.1)	○軽く外折する口縁部に、口縁端部 はつまみ上げ面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○外表面黄褐色7.5YR 5/6、外表面7.5 YR6/6	○構14 ○生駒西園庭
妻C	56	口 19.2 高 (5.7)	○「く」の字形に外反する口縁部に、 口縁端部はつまみ上げる。	○外表面体部タキ調整、内面側面方向 ハメメ(6/α)調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/2、外表面 灰色N3	○構5 ○外表面付帯
	57	口 16.8 高 (14.0)	○軽体の体部に、口縁部は「く」の 字形に外反する。口縁端部は面を もち1条の凹縫文をめぐらす。	○外表面部上位タキ調整、下位板 状工具によるナゲ調整を施す。 ○内面体部前方向ハメ調整を行なう。	○内面灰オリーブ5 Y5/2、外面上に ぶい黄褐色5Y3/4	○構5 ○生駒西園庭
	58	口 14.8 高 (15.8)	○軽体の体部に、口縁部は「く」の 字形に外反する。口縁端部は面を もつ。	○外表面体部タキ調整のちナゲ調整、 内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 5YR5/3、外面上に ぶい黄褐色5YR5/4 無底	○構11 ○生駒西園庭 ○無底
大垂 段 A	59	口 21.8 高 (3.0)	○「く」の字形に外反する口縁部を もつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 5YR5/2、外表面黄 色2.5YR6/2	○構5 ○生駒西園庭
妻B	60	口 14.2 高 (4.9)	○軽く外折する口縁部に、口縁端部 は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/4	○構12 ○生駒西園庭
	61	口 12.2 高 (2.5)	○「く」の字形に外反する口縁部と おわられる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色7.5 YR5/4、外面上に ぶい黄褐色10YR5/3	○構5 ○生駒西園庭
妻C 底部	62	底 4.4 高 (4.0)	○丸柱をもつ底部。 ○底部中央に穿孔。	○外表面タキ調整、内面ハメ調整 を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/4、外面上に ぶい黄褐色10YR 6/3	○構11 ○生駒西園庭
	63	底 4.1 高 (6.8)	○四む底部。	○外表面タキ調整、内面ハメ調整 を施す。 ○内外面共に風化している。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/5、外面上に ぶい黄褐色10YR 4/3	○構12 ○生駒西園庭
	64	底 4.1 高 (6.8)	○平底。	○外表面タキ調整のちハメ調整を 施す。 ○内面風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR 4/4、外面上に ぶい黄褐色10YR4/3	○構2 ○生駒西園庭 ○外表面付帯
	65	底 4.0 高 (3.4)	○底部中央がやや上げ底。	○外表面タキ調整、内面風化のため 詳細不明。 ○外表面風化している。	○内面黄褐色2.5Y 5/1、外表面黒褐色3Y 2/1、底部にぶい 黄褐色2.5Y6/3	○構5
	66	底 3.8 高 (4.0)	○平底。	○外表面タキ調整、内面風化のため 詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 7.5YR5/4、外面上に ぶい黄褐色10YR5/3	○構5 ○生駒西園庭
	67	底 5.4 (4.1)	○底部中央やや上げ底。	○外表面タキ調整、内面板状工具によ るナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/3、外表面 灰色2.5Y4/1	○構2 ○生駒西園庭

器形	番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
乳生土器	68	底 高 (5.5)	○平底。 ○底部中央に穿孔。	○外表面タキ調整、内面風化のため詳細不明。 ○内面底部コピオラニ調整を行う。	○内面暗灰黄色2.5 YS/2、外面上ぶい黃褐色10YR5/3	○構5 ○生鶴西面底
	69	底 高 (2.7)	○底部中央やや上げ底。	○外表面タキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/3、外面上ぶい黃褐色10YR5/3	○構5 ○生鶴西面底
	70	底 高 (4.0)	○平底。	○外表面タキ調整、内面板状工具によるナゲ調整。	○内面灰黄色5.5 10YR5/4、外面上ぶい黃褐色5.5YR4/3	○構5 ○生鶴西面底
	71	底 高 (5.1)	○底部中央やや上げ底。	○外表面タキ調整、内面板状工具によるナゲ調整。	○内面灰黄色 10YR5/4、外面上ぶい黃褐色5.5YR4/3	○構5 ○生鶴西面底
	72	底 高 (4.8)	○上げ底の底部。	○外表面タキ調整、内面風化のため詳細不明(ハケメ)。	○内面灰黄色2.5YR 7/2、外面上反黄色 2.5YR6/2	○構11
腰底部	73	底 高 (3.8)	○やや上げ底気味の底部。	○外表面風化のため詳細不明、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共にぶい黃褐色10YR7/3	○構5
腰身 底部	74	底 高 (2.5)	○平底。	○外表面ハミガキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面黃褐色2.5Y 5/1、外面上反色 2.5YR4/1	○構5 ○生鶴西面底
	75	底 高 (5.7)	○やや上げ底気味の底部。	○外表面ハミガキ調整、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内面灰色5YR4/1、 外面上反色2.5Y 7/2	○構5 ○生鶴西面底
更底部	76	底 高 (3.0)	○上げ底の底部。	○外表面ナゲ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面灰黄色2.5 YR5/4、外面上ぶい 黃褐色5.5YR4/3	○構5 ○生鶴西面底
	77	底 高 (2.45)	○やや上げ底氣味の底部。	○外表面ナゲ調整、内面板状工具によるナゲ調整を施す。 ○外表面木の葉正丸。	○内外面共にぶい黃 褐色10YR5/3	○構4
	78	底 高 (2.75)	○底中央やや上げ底氣味の底部。	○内外面共にナゲ調整を施す。	○内面灰色10YR 4/1、外面上ぶい 黃褐色5.5YR4/3	○構5 ○外表面竹筋
	79	底 高 (2.2)	○上げ底氣味の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○灰2.5YRA1、 外面上ぶい穂色 YR6/4	○構5 ○牛鶴西面底
	80	底 高 (3.6)	○底中央やや上げ底氣味の底部。	○外表面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y 8/1、外面上黑褐色 10YR2/2	○構2
小型甕	81	底 高 (3.6)	○上げ底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y 8/3、外面上ぶい 黃褐色5.5YR5/3	○構11
	82	口 9.65 高 8.8 底 4.0	○甕体をもつ体部から、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁部 には面をつ。 ○上げ底氣味の底部。	○外表面下位へラグゼリ調整、体部上位風化のため詳細不明。 ○内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内外面共灰黃褐色 10YRA/2	○構2 ○牛鶴西面底 ○完形
甕	83	口 16.0 高 (4.4)	○笠形を呈する。	○内外面共ナゲ調整を施す。 ○内面天井部付近コピ庄。	○内面暗灰黃褐色 7.5Y/2、外面上反 黃色2.5Y/4/2	○構2 ○生鶴西面底
	84	口 19.2 高 (4.65)	○甕部は下半が斜め上方にのり、上半は底盤して底口の形様となる。 ○口縁部は面をもつ。	○外表面口部ハケメ(9/1.2ca)調整、 体部風化のため詳細不明。 ○内面底部コピ庄、体部ナゲ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 4/1、外面上黄褐色 2.5YR6/1	○構4
高杯C	85	口 27.6 高 (5.05)	○甕部は外方にひらがる体部から、 さらには外反する口縁部をもち、口 縁部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。	○外表面方向、体部底方向のヘラミ ガキ調整を施す。 ○内面底部方向のハケメ(8/a)調整を行なう。	○内面暗黄褐色5.5 Y5/2、外面上黄褐色 10YR6/2	○構5 ○生鶴西面底
	86	口 20.4 高 (3.0)	○甕部は外方にひらがる体部から、 さらには外反する口縁部をもち、口 縁部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。	○内外面共ナゲ調整を施す。	○内面浅黄色2.5Y 7/3、外面上ぶい 黃褐色10YR6/3	○構5
高杯B	87	口 18.1 高 12.0 幅 12.8	○甕部は外方にひらがる体部から、 さらには外反する口縁部をもち、口 縁部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。	○外表面に縱方向のヘラミガキ調 整、脚柱部一部にハケメ調整が施 される。 ○内面底部ナゲ調整、脚柱部にシボ リメがみられる。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/3、外面上 ぶい黃褐色10YR 5/3	○構11 ○生鶴西面底
	88	口 25.5 高 (4.2)	○甕部は外方にひらがる体部から、 さらには外反する口縁部をもち、口 縁部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との間に稜をもつ。	○内外面共に縱方向のヘラミガキ調 整を施す。 ○外表面部にジグザグ状の文様の ヘラミガキを行う。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/4、外面上 ぶい黃褐色10YR 5/3	○構11 ○生鶴西面底

基形	番号	座標	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
秀士面	89	□ 20.2 高 (3.05)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内面ナデ調査、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/2、外面上に ぶい黄褐色10YR 7/3	○嘴5
	90	□ 27.0 高 (4.35)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面面共にぶい桔 色7.5YR7/4	○嘴10
	91	□ 28.6 高 (4.0)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面桔色5YR6/6、 外面上にぶい桔色5 YR6/4	○嘴12
	92	□ 29.8 高 (4.2)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面桔色5YR6/6、 外面上にぶい桔色5 YR6/4	○嘴2
	93	□ 34.5 高 (4.5)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR 6/4、にぶい黄褐 色10YR5/4	○嘴11 ○生飼西園庭 ○黒度
高杯B	94	□ 39.1 高 (3.5)	○杯部は外方にひがるが体感から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体感との境に健をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい桔色5 YR7/4、外面上に ぶい桔色7.5YR6/3	○嘴11 ○生飼西園庭 ○黒度
	95		○頭部欠失。	○外縫織方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調査を施す。	○内面黒褐色10YR 3/1、外面上に ぶい桔色10YR6/3	○嘴5 ○生飼西園庭 ○黒度
	96		○複数欠失。	○外縫織方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調査を施す。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR6/3	○嘴5 ○生飼西園庭 ○黒度
高杯 脚部	97		○器台付高杯 ○一部に円孔の穿孔の痕あり。	○外縫織調査のち、ヘラによる軽度研磨を施す。 ○内面風化のため詳細不明。	○内外面共接黄色2.5 YR8/3	○嘴14 ○黒度
	98	■ 16.6 高 (10.4)	○「ハ」の字形にひがるが脚柱部、 縫端部に面をもつ1条の凹線文を めぐらす。 ○3方の円孔が穿孔される。	○外縫織ヘメの縫方向のヘラミガ キ調整、内面にシボリメがみられる。	○内面にぶい桔色5 YR8/3、外面上に ぶい桔色7.5YR8/3	○嘴5 ○黒度
	99	■ 12.8 高 (7.1)	○「ハ」の字形にひがるが脚柱部、 縫端部に面をもつ1条の凹線文を めぐらす。 ○円孔が穿孔される。	○外縫織方向、内面縫方向のハケメ (10/cm)調査を施す。 ○内面にシボリメがみられる。	○内面接黄色2.5 YR8/3、外面上に ぶい桔色10YR7/3	○嘴11 ○黒度
	100	■ 11.0 高 (2.8)	○「ハ」の字形にひがるが脚柱部、 縫端部は丸くおさめる。 ○円孔が穿孔される。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/3、外面上 白2.5YR7/3	○嘴5 ○黒度
	101	■ 20.4 高 (10.2)	○「ハ」の字形にひがるが脚柱部、 縫端部は面をもち、その上部に細 かな縫目をめぐらす。 ○円孔は2箇所に穿孔されている。	○外縫織ヘメ (9/cm)、内面ナデ調 査を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/4、外面上に ぶい黄褐色10YR 6/3	○嘴11 ○生飼西園庭
脚C	102	■ 14.2 高 (3.9)	○丸味もつ「ハ」の字形にひがる が脚柱部、縫端部はやや尖り突起 に終わる。 ○円孔は2カ所に穿孔されている。	○外縫織調査、内面ハケメ調査を 施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/3、外面上 黄褐色2.5YR7/3	○嘴12
	103		○脚部欠失。	○外縫織ヘメ (11/cm)調査が施 され。 ○内面風化のため詳細不明、脚柱部 にシボリメがみられる。	○内外面共接黄色2.5 YR7/3	○嘴11
	104	■ 17.4 高 (3.95)	○「ハ」の字形にひがるが脚柱部、 縫端部に面をもつ。 ○円孔が穿孔されている。	○外縫織調査、内面ハケメのナ デ調査を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/3、外面上に ぶい黄褐色10YR 5/4	○嘴2 ○生飼西園庭
	105		○脚部欠失。 ○筒形の脚柱部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色10YR4/4、 外面上接黄色5YR 5/6	○嘴2 ○生飼西園庭
	106	□ 13.1 高 (3.6)	○なだらかに外反する口縁部に、口 縁端部はそのまま面をもっておわ る。	○口縁端部に1条の凹線文がめぐら れる。 ○内外面共に口縁部コナグ調査、 内面縫部板状工具によるナデ調査 を施す。	○内外面共接黄色2.5 YR7/2、浅黄色2.5 YR7/3	○落ち込み1 ○生飼西園庭
董A	107	□ 14.7 高 (3.3)	○縫斗状にひがるが口縁部をもち、 口縁端部を下方に折戻す。	○口縁端部を筆刷で5条の沈線文と 竹管竹削印形序文を施す。 ○外縫織化のため詳細不明、内面ヘ ラミガキ調査を行う。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/3、4/3	○落ち込み1 ○生飼西園庭

番号	番号	位置	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
外轮廓	108	口 13.7 高 (8.4)	○やや外模気味の頗く直立する唇部に、なだらかに外反する口縁部。口縁部はそのまま面をもつておわる。	○口縁端部は1条の平行線がめぐらされる。 ○外側方向へラミガキ調整、内面ナビ調整を施す。 ○内外面共に被覆している。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/3、外面に ぶい黄褐色10YR 7/2	○落ち込み1 ○生地込み1
	109	口 32.8 高 (2.4)	○扁斗状にひらがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部延長面上に4条の平行線がめぐらされる。 ○内外面共にナビ調整が施される。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3、黄褐色2.5Y3/3	○落ち込み1
	110	口 14.7 高 (8.3)	○なだらかに外反する口縁部に、口縁端部はそのまま面をもつておわる。	○口縁端部は1条の平行線がめぐらされる。 ○内外面共に口縁風化ため評価不明、外側方向延長面上のハケメ調整、内面体部方向へのナビ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生地込み1
長脚部	111	口 8.2 高 19.0 底 4.8	○腹部中央が最大径となる算盤型をもつ体部に、長い面部から口縁部はむずかに外傾する。口縁端部は面をもつ。 ○やや上げ度の底部をもつ。	○腹面体部下からタキメの長いヘラミガキ、口縫部から口縫風化方向のヘラミガキ調整を施す。 ○内面体部下から底筋はハケメ(8mm)調整を行ふ。 ○口縁部が前方の文様状のハケメを呈する。	○内外面共に黄褐色2.5 Y7/2	○落ち込み1 ○絞り充形
	112	口 12.2 高 (12.45)	○長い脚部から外傾して立ち上がり、口縫部はむずかに外反する。	○外面腹部方向のハケメ(11mm)後ヘラミガキ調整を施す。 ○内面ナビ調整を行う。	○内面灰黄色2.5 Y7/2、外面灰黄色 2.5Y7/2-6/2	○落ち込み1 ○底筋
	113	口 12.3 高 (4.85)	○長い脚部から外傾して立ち上がり、口縫部はむずかに外反する。	○外面風化ため評価不明、内面横方向のナビ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色2.5 Y6/3、外面にぶ い黄褐色2.5Y5/4	○落ち込み1
垂底部	114	底 5.1 高 (9.05)	○上げ度の底底から、丸味をおびた体部。	○外面藏弓方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ(6mm)調整を施す。	○内面藏弓方向のヘラミガキ調整、内 面ハケメ(6mm)調整を施す。	○落ち込み1 ○底筋
垂D	115	口 13.6 高 (6.15)	○太く短い脚部と、外反する口縫部。口縫端部は下方に拡張する。	○口縫端部直張面には、機械による4条の平行線が施される。 ○外側脚部にハケメ(7mm)調整、内面脚部方向のヘラミガキ、体部状工具によるナビ調整を行ふ。	○内外面共に黄褐色2.5 Y7/2、外面暗灰黃 色2.5Y4/2	○落ち込み1 ○生地込み1
垂C	116	口 17.2 高 (1.6)	○外模気味の面部に、外折する口縫部。口縫端部は下方に拡張する。	○口縫端部直張面には、機械による4条の平行線が施される。 ○内外面共にナビ調整を行う。	○内面にぶい黄褐色2.5 Y6/3、外面灰黃 色2.5Y7/2	○落ち込み1
垂D	117	口 14.6 高 (6.9)	○太く短い脚部の脚部と外反する口縫部。口縫端部は下方に拡張する。	○口縫端部直張面には、機械による4条の平行線が施される。 ○外面ハケメ(8mm)調整のものも脚部方向のヘラミガキ調整、内面口縫板状工具によるナビ調整、体部はユビナビ調整を行ふ。 ○口縫端部直張面に文字を施したものの、ヘラミによる削り切られた所が現れる。	○内面灰黄色10Y R6/2、外面灰黃 色2.5Y6/2-5/2	○落ち込み1 ○生地込み1
	118	口 14.5 高 22.85 底 5.1	○平底から、最大径を上位にもつ体部。太く短い脚部の脚部と外反する口縫部。口縫端部は上下に肥厚する。	○外側方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ(2.8cm×12.2cm)調整が施される。 ○内外面共に中央被覆している。	○内外面共に黄褐色2.5 Y8/2	○落ち込み1
垂縫部	119		○深緑のにのる長い口縫部。口縫端部は面をもつ。	○外面口縫部にヘラミによる波状文を施す、ベンガラを散布している。 ○内外面共に能方向へラミガキ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 4/1、外面黒褐色 2.5Y3/1	○落ち込み1
垂体部	120		○丸味をもつ体部。	○外面ヘラミガキ調整のもの、ヘラミ波状文による文様。 ○内面ハケメ(7mm)調整を施す。	○内外面共に黄褐色2.5 Y7/3	○落ち込み
	121		○丸味をもつ体部。	○外面体部部位に2段からなるヘラミによる点文、ハケメ調整が施されるが、崩壊している。 ○内面ニビナビとカケメ調整を行ふ。	○内面灰褐色5Y3/1、 外表面灰褐色2.5Y 7/3	○落ち込み2
垂筋部	122		○外反する筋部。	○外面筋方向のハラミ(10mm)調整のもの、開闊をもった1条の平行線文を施す。 ○内面ニビナビとカケメ調整を行ふ。	○内面褐色7.5YR 4/6、外表面灰褐色 YR4/4	○落ち込み1 ○生地込み1
B	123	口 13.8 高 (3.1)	○外折する口縫部、口縫端部は上方につまみ上げる。	○内外面共にナビ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/3、外表面 5Y2/1	○落ち込み1 ○生地込み1 ○外側接着着
垂C	124	口 15.1 高 (11.0)	○丸味をもつ体部に、外反する口縫部。口縫端部は外折する。	○外面タキメ調整、内面板状工具によるナビ調整を施す。	○内外面共に黄褐色 10YR5/2	○落ち込み1
	125	口 18.6 高 (18.3)	○丸味をもつ体部に、外反する口縫部。口縫端部は外折する。	○外面ハケメのちタキメ調整、内面風化のため評価不明。	○内面灰褐色10YR 5/3、外表面黑色10 YR1.7/1	○落ち込み1 ○生地込み1 ○外側接着着

器形	番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
外生土器	126	口 15.8 高 (8.7)	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面ハケメのちタキ調整、内面ナゲ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面灰青褐色10YR6/2	○落ち込み1 ○落ち込み1
	127	口 15.3 高 (7.05)	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面ハケメのちタキ調整、内面ナゲ調整を施す。	○内外面共緑灰黄色2.5Y 7/2、外面灰青褐色10YR6/2	○落ち込み1 ○外側保付着
	128	口 13.8 高 (4.1)	○外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外縁タキ調整、内面ニビナゲ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面淡黄色2.5Y 5/2	○落ち込み1 ○落ち込み1
	129	口 12.2 高 (6.7)	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。	○外面タキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共灰黄色2.5 Y6/2	○落ち込み1
更B	130	口 11.8 高 (3.05)	○外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○外型風化のため評価不明、内面軟木工具によるナゲ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面黄褐色10YR7/3	○落ち込み1
	131	口 16.9 高 (4.25)	○外折する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共ナゲ調整を施す。	○内面にぶい素褐色10YR6/3、外面上部に黄褐色10YR5/2、下部に黄褐色10YR5/3	○落ち込み1
	132	口 17.8 高 (7.3)	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	○外面ナゲ調査、内面風化のため評価不明。	○内面灰黃褐色10YR 5/2、外面上部にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生側西面底
	133	口 18.4 高 (4.1)	○外折する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○口縁端部に1条の印記文を施す。 ○内外面共ナゲ調整、内面口縁部ハケメ調整を施す。	○内面灰黃褐色10YR 5/2、外面上部にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○落ち込み1 ○外側保付着
蓋	134	口 18.2 高 (2.5)	○要るといひ字の蓋。	○外面へラミガキ調整、内面ナゲ調査を施す。	○内面灰黃褐色10YR 5/2、外面上部にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生側西面底
	135	口 14.1 高 10.1 幅 11.4	○浅い範囲の杯部をもつ。 ○「ハ」の字形に広がる瓶底から、内傾する脚柱部。	○内外底共に風化のため評価不明。 ○瓶底中央に円孔が4ヶ所穿孔された。	○内外面共にぶい緑色7.5YR6/6	○落ち込み1
高杯C	136	高 14.2 高 (3.2)	○「ハ」の字形にひろがる瓶底をもつ。 ○瓶底部は面をもつ。	○外面底方向のハケメ(8/6)調整、内面ナゲ調査を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR6/3	○落ち込み1
	137	高 20.0 高 (3.65)	○「ハ」の字形にひろがる瓶底をもつ。 瓶底部は面をもつ。	○内面底方向のハケメ(8/6)調整、内面ヘラミガキ調査を施す。 ○瓶底底部に4枚の四錐孔。	○内面灰黄色2.5Y 7/3、外面上部に黄褐色10YR 4/3	○落ち込み1 ○生側西面底
高杯B	138	口 27.3 高 (5.2)	○杯部下斜め上方にのび、上半は角度をかえて立ち上がる。	○外型風化のため評価不明、内面底方向へのラミガキ調査を施す。	○内面にぶい素褐色10YR6/3、外面上部に黄褐色10YR 4/3	○落ち込み1 ○生側西面底
	139	高 14.7 高 (11.5)	○「ハ」の字形にひろがる瓶底部に直立する脚柱部。瓶底部は面をもつ。	○外曲線方向のヘラミガキ調査、内面ナゲ調査を施す。 ○脚柱部直立している。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄褐色10YR6/3	○落ち込み1
高杯 脚柱部	140	高 12.9 高 (6.35)	○「ハ」の字形にひろがる瓶底部、瓶底部は上方にまき上げ、面をもつ。	○外曲線方向のヘラミガキ調査、内面底部にハケメ調査、瓶底部軟木工具によるナゲを施す。 ○脚柱部直立している。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外面上部に黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生側西面底 ○内外底付着
	141		○「ハ」の字形にひろがる瓶底部。	○外曲線方向のヘラミガキ調査、内面底方向へのラケギリ調査を施す。 ○内外面共にナゲ調査を施す。	○内面灰青色2.5Y 6/2、外面上部に黄褐色2.5Y 5/2	○落ち込み1 ○生側西面底
	142		○「ハ」の字形にひろがる瓶底部、屈曲して首筋の脚柱部をもつ。	○内面ヘラミガキ調査のもの、構造底調査。裾と脚柱部にサザミを施す。 ○内面ナゲ調査を行う。 ○瓶底部に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄褐色10YR7/3	○落ち込み1
	143		○「ハ」の字形にひろがる脚柱部。	○外曲線方向のヘラミガキ調査、内面ナゲ調査を施す。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄褐色10YR7/2・7/3	○落ち込み1
	144		○「ハ」の字形にひろがる脚柱部。	○外曲線方向のヘラミガキ調査、内面ナゲ調査を施す。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。	○内外面共共灰黄色10YR4/Y、内面脚部にぶい緑色2.5YR6/4	○落ち込み1
鉢B	145	高 15.4 高 (4.1)	○「ハ」の字形にひろがる瓶底部。	○外型風化のため評価不明、内面ナゲ調査を施す。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。 ○内外面共に磨擦している。	○内外面共灰黄色2.5 Y7/2	○落ち込み1 ○黑斑
	146	口 19.8 高 (6.25)	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ(10/6)のちナゲ調査、内面ハケメ調査を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外面上部に黄褐色10YR6/2	○落ち込み1 ○外側保付着

器 形	番 号	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	色 調	備 考
秀子面部	147	口 21.1 高 (3.6)	○半球形の体部に、口縁部は外反する。 ○縫端部は面をもつ。	○外表面ハケメ調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共10YR5/3 ○落ち込み1 ○生脚西脛底	
	148	口 15.8 高 9.0 底 3.8	○やや丸味をもつ底部から、半球形をもつ体部。口縁部は直し、口縫端部はやや入り気味におわる。 ○底部中央に穿孔。	○内外面共にハケメ（内面9/1.8cm・ 外側9/2.0cm）調整を施す。	○内外面共10赤褐色5YR3/6	○落ち込み1
台付鉢	149	高 5.8 高 (2.9)	○「ハ」の字形で広がる裾部。裾端部は面をもつ。	○外表面方向へのラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面灰黃褐色10YR6/2、外面灰黃色 2.5Y7/2	○落ち込み1
脚底部	150	底 4.5 高 (3.6)	○上口底の底底部から、半球形の体部をもつ。	○内外面共に体部ナデ調整、底底部 ビオサエ。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底
	151	底 4.4 高 (4.9)	○上げ底の底底部から、半球形の体部をもつ。	○外表面部ナデ調整、内面ハケメ (9/cm)調整を施す。 ○底部ビオサエ。	○内面灰黃褐色2.5 YS/2、外面灰黃色 10YR5/2	○落ち込み1 ○生脚西脛底
鉢B	152	口 10.4 高 6.0 底 3.2	○上げ底の底底部から、半球形の体部をもつ。口縁部は直し、口縫端部はやや入り気味におわる。	○外表面部ナデ調整、底部タキナ 調整を施す。内面ナデ調整のハケ メ調整を行なう。	○内面灰白色Y4/1、 外面灰色5Y5/1	○落ち込み2 ○生脚西脛底
手筋形 土器	153		○外表面に凸筋が造らされる。	○外表面風化のため評価不明、内面板 状工具によるナデ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y 5/2、外面灰黃色 2.5Y7/2	○落ち込み1 ○底底
垂底部	154	底 4.5 高 (2.95)	○平底から、直筋して直線的に外方 に向がる体部をもつ。	○外表面方向へのラミガキ調整、外 横筋方向のハケメ (5/cm)調整を 施す。	○内面灰5Y4/1、 外面暗灰褐色2.5 YS/2	○落ち込み1 ○生脚西脛底
	155	底 4.2 高 (2.7)	○平底から、直筋して直線的に外方 に向がる体部をもつ。	○外表面方向のラミガキ調整、内 面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 4/1、外面暗灰黃 色2.5Y4/2	○落ち込み1 ○生脚西脛底 ○外筋付着
兜底部	156	底 4.0 高 (4.2)	○平底から、直線的に外方へ広がる 体部をもつ。	○外表面方向のハラミガキ調整、内 面ハケメ (5/cm)調整を施す。 ○外表面に半球形の痕が残られる。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面上にぶい 黄褐色10YR6/3	○落ち込み1
	157	底 4.7 高 (2.4)	○平底から、直線的に外方へ広がる 体部をもつ。	○外表面方向のハケメ、内面板 状工具によるナデ調整を施す。	○内面暗灰黃色2.5 Y4/2、外面上 黄色5Y4/2	○落ち込み1 ○生脚西脛底
肩・脚 底部	158	底 5.8 高 (2.0)	○平底。	○外表面方向のハケメ (9/cm)調整、 内面ナデ調整を施す。	○内面上にぶい黄 褐色10YR6/3、外面上 にぶい黃褐色10YR 5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底 ○外筋付着
	159	底 8.8 高 (3.45)	○平底。	○外表面方向のハケメ (4/cm)調整、 内面ナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底
腰底部	160	底 4.2 高 (4.3)	○平底。	○外表面方向のハラミガキ調整、内 面ナデ調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y 5/3、外面黄灰色 2.5Y4/1	○落ち込み1 ○生脚西脛底 ○外筋付着
要底部	161	底 4.0 高 (4.1)	○上げ底の底部。	○外表面タキのちナデ調整、内面風 化のため評価不明。	○内面リーブ黒 5Y3/1、外面黄 褐色10YR5/2	○落ち込み1 ○生脚西脛底
	162	底 4.9 高 (3.7)	○平底。	○外表面タキのちナデ調整、内面風 化のため評価不明。	○内面上にぶい黄 褐色10YR6/3、外面灰 褐色2.5Y5/2	○落ち込み1
	163	底 5.0 高 (4.3)	○平底。	○外表面タキ調整、内面ハケメ (10/cm) 調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y 5/3、外面黃褐色 2.5Y2/1	○落ち込み1 ○生脚西脛底 ○外筋付着
要・腰 底部	164	底 5.6 高 (4.0)	○平底。	○外表面ハケメのちタキ調整、内面 風化のため評価不明。	○内面暗灰黃色2.5 YS/2、外面上 黄色5Y4/1	○落ち込み1 ○生脚西脛底
要底部	165	底 3.9 高 (2.5)	○平底。	○外表面ナデ調整、内面ハケメ (6/cm) 調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面灰黃 色10YR5/2	○落ち込み1 ○外筋付着
	166	底 4.7 高 (2.5)	○上げ底腹味の底部。	○内外面共にナデ調整を施す。 ○外表面ビオサエを行なう。	○内面灰黃褐色5Y 5/3、外面上にぶい 黃褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底
	167	底 5.2 高 (3.8)	○底部は内面から穿孔されたために、 凸る。	○外表面タキ調整、内面ハケメ (7/cm) 調整を施す。	○内面共にぶい黄 褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底
	168	底 5.0 高 (4.2)	○平底。	○外表面タキ調整、内面ハケメ調整 を施す。	○内面上にぶい黃 褐色5Y5/3、外面上 黄色2.5Y5/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底
要・腰 底部	169	底 3.4 高 (1.4)	○平底。	○内外面共に風化のため評価不明。	○内面白色2.5Y 8/2、外面上にぶい 黃褐色10YR7/3	○落ち込み1
更底部	170	底 4.4 高 (2.1)	○中や上げ底腹味の底部。	○外表面風化のため評価不明、内面板 状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰色5Y4/1、 外面上にぶい黃 褐色10YR6/3	○落ち込み1 ○生脚西脛底

器形	番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
外生部 茎・基底部	171	底 6.0 高 (2.05)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色2.5 Y6/3、外面オーリーブ褐色5Y2/2	○落ち込み1 ○黒斑
	172	底 5.6 高 (3.0)	○丸底の底部に逆三角形の高台をもつ。	○外面ナゲ調整、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR7/2	○落ち込み1 ○黒斑
	173	底 5.1 高 (2.55)	○中央が凹む底部。	○内外面共にナゲ調整を施す。	○内面灰褐色2.5 Y7/2、外面にぶい黄褐色7.5YR7/3	○落ち込み1
茎A	174	口 16.0 高 (2.75)	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に弧張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄褐色10YR6/4	○土壇9 ○牛胸西面産
	175	口 19.0 高 (3.7)	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に弧張する。	○内外面共にハケメ調整を施す。窓或いは底の詳細不明。	○内面灰褐色10YR 5/2、外面灰褐色10YR6/2	○土壇9 ○牛胸西面産
	176	口 22.4 高 (11.2)	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部はやや下方に弧張する。	○外面縮方向のヘラミガキ調整、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、にぶい黄褐色10YR6/3	○土壇7 ○外面付着
	177	口 28.5 高 (8.6)	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に弧張する。	○外面ナゲ調整、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色2.5Y6/3	○土壇27 ○牛胸西面産
	178	口 17.2 高 (5.9)	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に弧張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR4/3、外面にぶい黄褐色10YR 5/3	○土壇5 ○牛胸西面産
長脚部 B	179	口 11.4 高 (7.65)	○外傾して立ち上がる窓部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面風化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色2.5 YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR6/4	○土壇7 ○牛胸西面産
	180	口 14.6 高 (5.0)	○外傾して立ち上がる窓部に、口縁部はわずかに外反する。	○内外面共にヘラミガキ調整を施す。	○内面オーリーブ色3Y3/1、外面にぶい黄褐色10YR3/1	○土壇5 ○牛胸西面産
	181	口 9.0 高 (2.35)	○外傾して立ち上がる窓部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面縮方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面灰褐色2.5 YR8/4、外面灰褐色2.5Y6/2	○土壇7
無脚部 B	182	口 13.0 高 (5.05)	○球形の体形に、口縁部が「く」の字形に外反する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色10YR 4/2、外面にぶい黄褐色5YR5/4	○土壇6 ○黒斑
茎B	183	口 13.8 高 (5.1)	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明、口縁端部は面をもつ。	○内面オーリーブ色4YR 6/2、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○土壇9
	184	口 16.0 高 (4.5)	○「く」の半形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面ナゲ調整、内面板状工具によるナゲ調整。	○内面灰褐色2.5 YR6/2、外面にぶい黄褐色10YR6/3	○土壇9 ○外面付着
	185	口 18.0 高 (4.85)	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はやや厚手をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面共にぶい黄褐色10YR6/3	○土壇6 ○牛胸西面産
更底部	186	底 5.4 高 (2.3)	○平底。	○内面と外側底部風化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内面オーリーブ色3Y3/1、外側底部風化10YR5/2	○土壇9 ○外面付着
	187	底 4.4 高 (3.4)	○中央がやや上昇気味の底部。	○外面ナゲ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色2.5 YR5/4、外側底部風化10YR6/2	○土壇9
	188	底 6.0 高 (2.65)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色2.5 Y5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○土壇7 ○牛胸西面産
茎C	189	底 6.2 高 (3.55)	○上げ底気味の底部。	○外面ナゲ調整、内面板状工具によるナゲ調整。	○内面灰褐色10YR 4/1、外側底部風化10YR6/2	○土壇9
更底部	190	底 4.6 高 (1.8)	○上げ底の底部。	○内外面共ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR2/2、外側底部風化10YR6/3	○土壇6
	191	底 4.8 高 (2.4)	○平底。	○外側風化のため詳細不明、内面板状工具によるナゲ調整を施す。	○内面オーリーブ色3Y3/1、外側底部風化10YR6/3	○土壇9
	192	底 5.4 高 (4.85)	○上げ底の底部。	○外側風化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内面灰褐色2.5 Y8/3、外面にぶい黄褐色2.5YR5/3	○土壇9
茎・先 底部	193	底 15.4 高 (2.05)	○平底。	○外側風化のため詳細不明、内面ハケメ調整を施す。	○内面灰褐色10YR 3/1、外側底部風化10YR4/2	○土壇9 ○外側付着
更底部	194	底 7.3 高 (2.7)	○平底。	○内外面共にハケメ調整、外側底部ナゲのハケメ調整を施す。	○内面灰褐色2.5 Y7/2、外面にぶい黄褐色10YR7/3	○土壇5 ○黒斑
更底部	195	底 5.2 高 (3.95)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色5Y1/4、外面にぶい黄褐色10YR6/4	○ピット39 ○牛胸西面産

部 分	番 号	法 量	形 态 の 特 徴	接 法 の 特 徴	色 調	備 考
外生上唇	196	口 19.1 高 (4.9)	○口輪部は外に向うる唇部をもつ。 ささに外反する口輪部をもつ、口 輪端部は面をもつ。 ○口輪部、体部との境に凸部をもつ。	○内面、外面口輪部にヘラミガキ調 整、外面下半ハケメのちヘラミガ キ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/6、外面上 ぶい黄色2.5Y6/3	○土壤 9
	197	口 21.2 高 (4.0)	○口輪から屈曲し、反反射する口輪部。 口輪端部は下方やや肥厚し、面を もつ。 ○口輪部、体部との境に凸部をもつ。	○内外面共に詳細不明。 ○外面部にクシ接合状態を施す。	○内面にぶい黄色7.5 YR5/4、外面部 10YR4/6	○土壤 9 ○牛胸西脛皮
	198	裏 13.4 高 (3.0)	○「P」の字形にひらく基部。 ○円孔が穿孔される。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面乳褐色7.5YR 5/6、外面部褐色5 YR5/4	○土壤 9 ○牛胸西脛皮 ○黒斑
高杯 脚部	199		○輪脚欠失。 ○輪状の脚部。 ○円孔は2段に穿孔される。	○外面部ヘラミガキ調整のち竹管によ る沈練、内面ハケメとナデ調整 を施す。	○内外面共にぶい黄 褐色10YR7/2	○土壤 9
	200	裾 15.4 高 (3.6)	○「P」の字形にひらく基部。	○外面部ヘラミガキ調整、内面ハケメ (6/α)調整を施す。	○内面灰褐色10YR 5/2、外面上 ぶい黃褐色10YR5/4	○土壤 9
	201		○輪脚欠失。 ○輪状の脚部。	○外面部ヘラミガキ調整、内面ナデ調 整を施す。	○内面外面共灰褐色 2.5Y5/3	○土壤 6 ○牛胸西脛皮 ○黒斑
	202	口 12.5 高 (2.0)	○外反射する口輪部。口輪端部は上方 に膨張して面をもつ。	○口輪部前面に、2条の凹縫文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色2.5Y 6/2、外面部 2.5Y5/5	○第1層 ○牛胸西脛皮
裏A	203	口 19.5 高 (1.95)	○口輪端部は下方に膨張する。	○口輪端部前面に、4条の凹縫文 と竹管押捺円形浮子を施す。	○内面前面にぶい黃 褐色10YR7/3	○第1層 ○牛胸西脛皮
	204	口 20.9 高 (1.65)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部下方に膨張する。	○口輪端部前面に、4条の凹縫文 と竹管押捺円形浮子を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面前面白色8 8/2、外面上 ぶい黃褐色10YR7/2	○第1層
	205	口 21.8 高 (2.05)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○口輪端部前面に、3条の凹縫文 と竹管押捺円形浮子を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR5/3、外面上 ぶい黃褐色10YR 5/4	○第1層 ○牛胸西脛皮
	206	口 25.8 高 (2.35)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○口輪端部前面に、3条の凹縫文 と竹管押捺円形浮子を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黃 褐色2.5Y5/4	○第1層 ○牛胸西脛皮
	207	口 31.4 高 (3.8)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○内外面ともに風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃色2.5 Y6/3、外面部 2.5Y6/2	○第1層 ○牛胸西脛皮
裏C	208	口 13.7 高 (5.25)	○歯立する唇部をもち、口輪部 は外反する。口輪端部は面をもつ。	○口輪部前面に斜目、外面部と口輪部内 面にヘラミガキ調整を、内面面部 はナデ調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/3、外面上 ぶい黃色2.5Y6/3	○第1層
	209	口 13.2 高 (4.4)	○歯立する唇部をもち、口輪部 は外反する。口輪端部は丸くおさ める。	○外面部ハメ(5/α)調整、内面ナ デ調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/3、外面上 ぶい黃褐色10YR 7/3	○第1層
	210	口 13.0 高 (4.3)	○歯立する唇部をもち、口輪部 は外反する。口輪端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色7.5 YR5/4、外面部 2.5Y5/6	○第1層 ○牛胸西脛皮
裏A	211	口 14.0 高 (5.6)	○歯立する唇部をもち、口輪部 は外反する。口輪端部は下方に膨 張する。	○外面部方向のヘラミガキ調整、内 面風化のため詳細不明。	○内面灰褐色2.5Y 8/3、外面部白 色2.5Y3/2	○第1層
	212	口 15.0 高 (5.7)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共10YR8/2	○第1層
	213	口 16.8 高 (3.45)	○外反射する口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR5/3、外面部 2.5Y5/3	○第1層 ○牛胸西脛皮
	214	口 22.8 高 (7.2)	○歯4本にひらがる口輪部をもち、 ○口輪端部は下方に膨張する。	○口輪端部前面に円形浮子をもつ。 ○外面部ヘラミガキ調整、内 面ハケメのナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黃 褐色10YR6/3	○第1層 ○牛胸西脛皮
裏底部	215	底 6.3 高 (7.3)	○中央が上げ放氣株の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/3、外面部 2.5Y5/1	○第1層
	216	底 5.2 高 (13.3)	○中央が上げ放氣株の底部。 ○底部に内面からの穿孔。	○外面部方向のヘラミガキ調整、内 面風化のため詳細不明。	○内面灰褐色2.5Y 5/4、外面上 ぶい黃褐色2.5Y6/4	○第1層 ○牛胸西脛皮 ○黒斑
長脚裏 B	217	口 10.6 高 (5.35)	○輪部はわ傾して立ち上がり、口輪 部はわずかに外反する。	○外面部のため詳細不明。内面接 方向のヘラミガキ調整を施す。	○内外面共にぶい黃 褐色10YR5/4	○第1層 ○牛胸西脛皮
全底部	218	底 2.2 高 (10.8)	○中央が上げ放氣株の底部、球形の 体部をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黃 褐色10YR6/3	○第1層 ○牛胸西脛皮

基 形	番 号	座 量	形 種 の 特 徴	特 性 の 特 徴	色 調	備 考
外半上唇部	219	口 16.4 高 (7.6)	○大きく深い縦部と、外反する口縫部。 口縫端部はわざかに上下に肥厚。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色5 YR6/4、外面灰色 N5/	○第1層
裏 C	220	口 19.2 高 (6.4)	○扁平状の頭部に、外反する比較的 長い口縫部。口縫端部はそのまま 面をもっておわれる。	○内外ハケメの紙方向へのラミガキ 調整、内面風化のため詳細不明。	○内外面灰白色2.5 YR4/2	○第1層
裏	221	口 10.3 高 (4.5)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR 5/6、外面赤褐色5 YR4/6	○第1層
	222	口 14.8 高 (3.7)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色7.5YR 7/2、外面にぶい穂 色7.5YR7/4	○第1層
	223	口 16.8 高 (7.3)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5YR 5/6、外面黄褐色 10YR5/6	○第1層 ○生駒西園庭
	224	口 16.0 高 (2.8)	○幅く外折する口縫部。口縫端部は そのまま面をもっておわれる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面青灰色2.5Y 4/1、外面にぶい穂 色5YR5/3	○第1層
	225	口 16.0 高 (3.2)	○幅く外折する口縫部。口縫端部は そのまま面をもっておわれる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR 5/6、外面にぶい穂 色7.5YR7/4	○第1層
	226	口 16.8 高 (2.95)	○ゆるやかに外反する口縫部、口縫 端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色5YR6/6、 外面にぶい穂色7.5 Y5/4	○第1層 ○生駒西園庭
裏・裏	227	口 16.4 高 (1.8)	○幅く外折する口縫部、口縫端部は 上方につまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色 10YR6/4、外面に ぶい穂色10YR 5/3	○第1層 ○生駒西園庭
裏	228	口 15.4 高 (3.1)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色 10YR6/3、外面に ぶい穂色10YR 5/4	○第1層
	229	口 15.4 高 (3.7)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色10YR4/4、 外面にぶい穂色 10YR5/4	○第1層 ○生駒西園庭
	230	口 16.8 高 (2.3)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色 10YR6/4、外面に ぶい穂色10YR 5/4	○第1層 ○生駒西園庭
裏底部	231	底 4.4 高 (3.65)	○平底。	○外面ヘラミガキ調整、内面風化の ため詳細不明。	○外面にぶい穂色5 YR6/4、外面にぶい 穂色10YR6/4	○第1層
	232	底 3.7 高 (3.8)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色 10YR6/3、外面に ぶい穂色10YR6/4	○第1層 ○黒底
	233	底 4.6 高 (4.35)	○やや丸味をもつ底。	○外面風化のため詳細不明、内面ナ ゲ調整を施す。 ○裏底部にヘラ状工具による記号 がみられる。	○外面にぶい穂色 10YR7/3、外面黃 色2.5Y2/2	○第1層
鉢	234	口 28.2 高 (6.7)	○「く」の字形に外反する口縫部、 口縫端部は上方につまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色7.5Y 7/6、外面7.5Y 6/6	○第1層
裏・裏 底部	235	底 4.8 高 (3.5)	○中央部が凹む底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい穂色5 Y6/4、外面にぶい 穂色10YR4/4	○第1層 ○生駒西園庭
	236	底 5.4 高 (3.5)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y 7/1、外面深黄色 2.5Y8/3	○第1層
	237	底 3.4 高 (1.8)	○平底。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面にぶい穂色7.5 YR7/4、浅黄色 10YR8/3	○第1層
	238	底 4.3 高 (1.9)	○やや上げ逆気味の底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共2.5Y8/3	○第1層
	239	底 5.2 高 (2.65)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面共種色7.5 Y6/6	○第1層
	240	底 3.5 高 (2.6)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面共種色7.5 Y5/6	○A地区第1層 別構
裏底部	241	底 4.4 高 (3.6)	○中央が凹む底。	○外面風化のため詳細不明、内面ハ ケメ調整を施す。	○内面黒褐色10Y 3/1、外面赤褐色 10R6/6	○B地区第1層

器 形	番 号	法 量	形 素 の 特 徴	技 法 の 特 徴	色 調	備 考
斧牛上唇	242	底 5.2 高 (3.1)	○平底。 ○底部中央より内面より穿孔。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y 6/2、外面上褐色 7.5YR5/6	○F地区第1層 ○生駒西面
鉢底部	243	底 6.0 高 (2.1)	○丸底に逆三角の高台がつく底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/4、外面上に ぶい黃褐色7YR 6/4	○A地区第1層 ○生駒西面
要底部	244	底 3.5 高 (2.65)	○上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5Y 6/2、外面上褐色7 YR5/6	○F地区第1層
	245	底 6.0 高 (6.3)	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/4、外面上に ぶい黃褐色10YR7/4	○E・F地区第 1層
漆面	246	つまら 4.2 高 (2.5)	○つまみの上部は凹む。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面上灰 2.5Y/7/3	○D地区第1層
裏面	247	口 13.3 高 (1.25)	○「ハ」の字形にひろがる口縁部、 口縁端部は上方に抜壓される。 ○口縁部に円孔が穿孔される。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色6YR 5/2、外面上に ぶい褐色5YR6/4	○H地区第1層
	248	口 13.6 高 (2.8)	○「ハ」の字形にひろがる口縁部、 口縁端部は上方に抜壓される。 ○口縁部に円孔が穿孔される。	○外面風化のため詳細不明、内面ナ ゲ調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/4、外面上に ぶい黃褐色10YR 5/4	○H地区第1層 ○生駒西面
要B	249	口 14.6 高 (3.5)	○外反する口縁部、口縁端部は 上方につまみ上げる。	○口縁端面には2条の凹線文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色8/2、 外面上にぶい 褐色5.5YR6/4	○O地区第1層
要C	250	口 18.6 高 (4.85)	○「く」の字形に外反する口縁部、 口縁端部は面をもつ。	○外面タタキ調整、内面風化のため 詳細不明。	○内面青灰色2.5Y 8/1、外面上にぶい 褐色5.5YR6/4	○第1層 ○生駒西面
	251	口 23.2 高 (8.2)	○「く」の字形に外反する口縁部、 口縁端部は上方につまみ上げる。	○外面部最端端面に2条の凹線文、 体部上面にヘルマによる割目、体部 はタタキ調整を施す。内面体部は ケズリ調整を行う。	○内面黒褐色2.5Y 3/2、外面上黑色2.5 Y2/1	○F地区第1層 ○角閃石を含む
高杯B	252	口 36.4 高 (3.85)	○外反する口縁部をもち、口縁端部 は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に接をもつ。	○内外面共にナゲ調整を施す。	○内面にぶい黃褐 色10YR6/4	○P地区第1層 ○生駒西面
	253	口 30.2 高 (3.55)	○外反する口縁部をもち、口縁端部 は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に接をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/4、外面上 褐色10YR5/6	○E・F地区第 1層 ○生駒西面
鉢A	254	口 29.4 高 (3.8)	○直立気味の体部上端を折り返すこ とによって、口縁部を段状に形成。	○口縁部端部に円孔穿文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面共にぶい黃 褐色10YR6/4	○E・F地区第 1層 ○生駒西面
鉢B	255	口 21.4 高 (3.7)	○外方にひらく体部から、屈曲して 外反する口縁部。口縁端部は丸く あきめる。	○外面風化のため詳細不明、内面ハ ケメ(7.0)調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 7YR5/4、外面上に ぶい黃褐色10YR6/4	○D地区第1層 ○生駒西面
高杯 脚部	256	高 8.4 高 (8.7)	○「ハ」の字形の脚柱。表面端部 は面をもつ。	○外縁端方向へのラミガキ調整、内 面ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR5/3、外面上 褐色10YR8/2	○F地区第1層
	257	高 10.0 高 (3.7)	○「ハ」の字形に広がる脚部。脚端 部は丸くあきめる。 ○円孔が穿孔される。	○外面風化のため詳細不明、内面 ナゲ調整を施す。	○内面浅黄色2.5Y 7/2、外面上黄色 2.5Y/3	○F地区第1層
	258		○口縁部、脚部欠失。	○杯部内面板状工具によるナゲ調整 を施す。他に風化のため詳細不明。	○内面オーリーブ色 5Y5/4、外面上に ぶい褐色7.5YR5/4	○F地区第1層 ○生駒西面
	259	高 7.6 高 (6.45)	○「ハ」の字形に広がる脚部。脚端 部は丸くあきめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR5/4、外面上 褐色10YR4/6	○C地区第1層 ○茶褐色シルト 質粘土 ○生駒西面
要A	260	口 20.8 高 (2.7)	○凸状にひらく口縁部をもち、 口縁端部は下方に抜壓する。	○口縁端部底面に、5条の凹線文 と有間作筋凹線文を施す。 ○外面部ラミガキ調整、内面風化の ため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/2、外面上に ぶい褐色5.5YR6/4	○D地区第2層
	261	口 18.4 高 (3.5)	○凸状にひらく口縁部をもち、 口縁端部は下方に抜壓する。	○口縁端部底面は風化のため詳細 不明。 ○外面部ハケメ(10.0)調査、内面ナ ゲ調整を施す。	○内面灰黃褐色10Y 6/2、外面上にぶい 黃褐色10YR7/3	○第3トレント 第2層
要D	262	口 14.7 高 (4.9)	○太い背筋の脚部をもち、口縁部は 外反、口縁端部は上下に押壓する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黃褐色 10YR4/3、外面上 褐色2.5YR6/6	○F地区第2層

基形	番号	法量	形態の特徴	技法の等級	色調	備考
芥半上唇	263	口 18.2 高 (3.0)	○口縁部は外反し、口縫端部は下方に倒立する。	○外延方向のヘラミガキ調整、内面ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/3、外面淡黄色2.5Y7/3	○第1トレンド 第2層灰黄色 砂
腮B	264	口 12.5 高 (4.85)	○「く」の字形に外反する口縫部をもつ。口縫端部はやや上方につまみ上げる。	○内面は縫部端方向のハケメ調整、体部内外風化のため詳細不明。	○内面淡黄色2.5Y 7/3、外面上にぶい 黄褐色10YR6/3	○D地区第2層
	265	口 16.8 高 (2.4)	○外反する口縫部。口縫端部は顎をもむがわる。	○内外共にハケメ (8/α) 調整がみられるが、風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/4、外面淡 褐色10YR6/6	○D地区第2層
	266	口 20.2 高 (5.4)	○「く」の字形に外反する口縫部、口縫端部は下方にやや抵抗失味。	○外ハケメ (6/α) 調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR7/3、外面に ぶい黄褐色10YR 6/3	○E地区第2層
	267	前 15.4 高 (2.7)	○「へ」の字形にひらがる面部、顎端部は上方につまみ上げをもつ。 ○1次の白帯がめぐる。	○外延方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ (5/α) のもハラミガキ調整を施す。	○内面淡灰色2.5Y 5/1、外側灰黄色 2.5Y2/2	○E地区第2層
鉢B	268	口 11.2 高 (5.95)	○平頭形の体部に、口縫部は外反する。口縫端部は顎をもつ。	○外延方向のヘラミガキ調整、内面ナゲ調整を施す。	○内面灰オーブ色 5Y5/2、外面オーブ 色5Y6/3	○第2トレンド 第2層 ○生飼西蔵産 ○黒斑
垂	269			○口縫端部は横張り点と竹管押捺印浮き等。	○内外共に淡黄色2.5 Y7/3	○C3.5トレンド 第2層
	270			○外延体部に円形凹管による剥突変化をもす。 ○外延風化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内外共にぶい黄 褐色10YR6/3	○D地区第2層
垂C	271	口 10.4 高 (4.3)	○前頭の顎面に外反する口縫部、口縫端部は顎をもむがわる。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内外共にぶい黃 色7.5Y5/4	○E・F地区第 2層 ○生飼西蔵産
垂底部	272	底 5.0 高 (4.65)	○中央部がやや上げ度風化的底部。	○内外共ともに風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5YR 5/8、外面上にぶい 褐色7.5YR5/3	○D地区第2層 ○生飼西蔵産 ○黒斑
	273	底 5.2 高 (2.4)	○平底。	○外延被状工具によるナゲ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面灰黄色5Y 4/1、外面上にぶい 黄褐色10YR7/2	○E地区第2層 ○生飼西蔵産 ○黒斑
	274	底 4.8 高 (2.6)	○平底。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5Y 5/6、外面裸	○D地区第2層
後底部	275	底 6.0 高 (4.9)	○平底。	○外延方向のハケメ調整、内面ケズリ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色 10YR6/4、外面に ぶい黄褐色10YR 5/4	○D地区第2層
跡底部	276	底 4.8 高 (5.5)	○丸底に逆三角形の高台をもつ。	○外ナゲ調整、内面ハケメ調整を施す。内面被状している。	○内面にぶい褐色 7.5YR3/2、外面に ぶい黄褐色10YR 5/3	○B地区第2層 倒脚 ○生飼西蔵産
要底部	277	底 4.3 高 (3.85)	○平底。	○外延方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ (9/α) 調整を施す。	○内面灰黄色5Y 4/1、外側灰褐色10YR 4/2	○D地区第2層 ○外延被状
	278	底 4.4 高 (3.0)	○中央部がやや上げ度の底部。	○内外共にハケメ (10/α) 調整を施す。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面上にぶい 褐色7.5YR6/3	○外延被付着
要C	279	底 4.9 高 (2.9)	○中央部がやや上げ度の底部。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色2.5Y 6/2、外面上にぶい 褐色5YR6/3	○E地区第2層 黑斑粘土 ○外延被付着
垂・要 底部	281	底 4.8 高 (2.3)	○上げ度の底部。底部中央に外延から出る穿孔。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色 10YR5/4、外面上に ぶい黄褐色10YR 6/3	○A地区第2層 ○生飼西蔵産
	282	底 6.2 高 (2.65)	○上げ度の底部。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色5Y 4/1、外面上にぶい 黄褐色10YR5/3	○E地区第2層 黑斑粘土 ○生飼西蔵産
	283	底 4.7 高 (3.0)	○平底。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面淡黃褐色10Y R8/3、外面上にぶい 褐色5YR7/4	○E地区第2層
兜蓋	284	つまみ 3.0 高 (2.4)	○平なつまみ部。	○外延ナゲ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面灰黃褐色10Y R5/2、外側オーブ 色5Y3/1	○第1トレンド 第2層灰黄色 砂
高杯 脚柱部	285	裏 8.8 高 (2.85)	○「ハ」の字形にひらがる脚部。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面共にぶい黃 褐色10YR7/4	○D地区第2層
高杯B	286	口 15.0 高 (1.7)	○杯底は外方にひらがる体部から、さらに外反する口縫部をもち、口縫端部はやや丸くおさめる。 ○口縫部、体部との境に縫をもつ。	○外延風化のため詳細不明、内面ナゲ調整を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/4、外面桂色 7.5YR6/6	○E・F地区第 2層

基 形	番 号	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	色 調	備 考
苏生器	287	口 18.6 高 (3.4)	○口部は外方にひろがる口縁から、 さらに外反する口縁部をもち、 口縫端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に縫をもつ。	○内外両方に風化のため評価不明。	○内面難色5YR6/6、 外面難色7.5YR6/6	○B地区第2層
妻F 体部	288		○縫部と体部の境に凸脊を付ける。	○内外両方に被状工具によるナデ調 を施す。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面淡黄色 2.5Y7/3	○B地区落ち込 み1茶褐色シ ルト質粘土
妻G部	289	底 7.0 高 (6.0)	○中央部がやや上げ底の底部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内 面板状工具によるナデ調整を施す。 内面磨減している。	○内面黑褐色2.5Y 3/1、内面黒褐色 2.5Y3/2	○A地区落ち込 み1 ○生胸西面底
妻B	290	口 14.0 高 (4.1)	○「く」の字形に外反する口縁部、 口縫端部は面をもつ。	○外側ハメ(10mm)調整、内ナ デ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y 10YR5/3、外面褐 色10YR4/4	○C地区落ち込 み1 ○生胸西面底
妻G部	291	底 5.0 高 (2.6)	○やや上げ底の底部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内 面風化のため評価不明。	○内面灰白色2.5Y 8/1、外面にぶい 緑色7.5YR6/4	○F地区落ち込 み1 ○生胸西面底
妻底部	292	底 4.6 高 (2.0)	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面黑色2.5YR 4/3、外面灰褐色5 YR4/2	○B地区落ち込 み1茶褐色シ ルト質粘土 ○生胸西面底
	293	底 5.4 高 (3.3)	○中央部が上げ底の底部。	○外側ハメ調整、内面風化のため 評価不明。内面磨減している。	○内外両共暗茶黃色 2.5Y3/2	○B地区落ち込 み1茶褐色シ ルト質粘土 ○生胸西面底 ○内面付着
高杯B	294	口 34.4 高 (6.4)	○杯部は外方にひろがる口縁から、 さらに外反する口縁部をもち、 口縫端部は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に縫をもつ。	○外面体部、内面口縫部へラミガキ 調整を施す。内面体部磨減してい る。	○内面淡灰色2.5Y 8/3、外面にぶい 黃褐色10YR7/3	○C地区落ち込 み1茶褐色シ ルト質粘土 ○生胸西面底
妻A	295	口 14.0 高 (3.45)	○胸4寸ひろがる口縁部をもち、 口縫端部は下方に斜度する。	○口縫端部拵画面に、円形竹管によ る削突文を施す。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/4、外面明 褐色7.5YR6/6	○C地区茶褐色 シルト質粘土
	296	口 21.5 高 (2.8)	○口縫端部や外方に払垂。	○口縫端部拵画面に竹管押捺形浮 文を施す。 ○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/4、外面にぶ い黃褐色10YR6/3	○B地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
妻G	297	口 23.0 高 (3.45)	○口縫部を上方に拭葉。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面にぶい黃褐色 10YR7/3、外面8 YR6/6	○C地区茶褐色 シルト質粘土
妻D	298	口 10.8 高 (3.95)	○外反する口縫部。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面にぶい黃褐色 7.5 YR6/4、外面にぶ い褐色SYR5/3	○B地区包含層
長縫妻 B	299	口 13.0 高 (6.1)	○長い感歎から外傾して立ち上がり、 口縫部がわざかに外反する。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/4、外側明 褐色SYR5/6	○C地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
妻A	300		○口縫端部を下方に長張。	○口縫端部拵画面に竹管押捺形浮 文による刻突文を施す。 ○内外両方に風化のため評価不 明。	○内外両共明褐色7.5 YR6/6	○C地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
妻G部	301	底 6.2 高 (2.5)	○平底。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面黃褐色2.5Y 5/3、外面黃褐色 2.5Y5/3	○第3トレンド 土 ○生胸西面底
長縫妻 B	302		○長い感歎。	○外面能方向のヘラミガキ調整、内 面風化のため評価不明。外側磨 減している。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/3、外側明 褐色10YR6/2	○B地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
妻C	303	口 14.2 高 (4.8)	○「く」の字形に外反する口縫部。 口縫端部はやや丸くおさめる。	○外側タキ調査、内面風化のため 評価不明。外側磨減してい る。	○内面灰黃褐色10Y 5/2、外側にぶい 褐色SYR6/4	○N地区 ○生胸西面底
	304	口 15.6 高 (8.0)	○「く」の字形に外反する口縫部。 口縫端部はやや丸くおさめる。	○外側タキ調査、内面風化のため 評価不明。外側磨減してい る。	○内面にぶい黃褐色 10YR6/3、外側明 褐色10YR6/2	○B地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
妻	305	口 15.9 高 (3.0)	○「く」の字形に外反する口縫部。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面灰黃褐色10Y 5/2、外側にぶい 褐色7.5YR5/3	○A・F地区Z ○内面にぶい 褐色7.5YR5/3
	306	口 16.2 高 (2.2)	○「く」の字形に外反する口縫部。 口縫端部はつまみ上げる。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面にぶい黃褐色 7.5YR2/4	○内面にぶい黃褐色 7.5YR2/4
妻・妻 底部	307	底 6.4 高 (1.7)	○平底。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面黄褐色2.5Y 4/1、外面褐色10 YR4/4	○B地区茶褐色 シルト質粘土 ○生胸西面底
	308	底 5.4 高 (2.3)	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外両方に風化のため評価不 明。	○内面黄褐色2.5Y 4/1、外面褐色10 YR4/4	○B地区茶褐色 シルト質粘土 ○牛胸西面底

器 形	番 号	法 量	形 素 の 特 徴	算 法 の 特 徴	色 調	備 考
弥生時代 底部	309	底 5.0 高 (3.5)	○平底。	○外面ナゲ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面赤褐色10YR 8/3R、外裏にぶい黄褐色10YR4/3	○B地区茶褐色シルト質粘土
	310	底 5.2 高 (3.0)	○上げ底の底部。	○外側斜工具によるナゲ調整、内面ユビナゲ調整。	○内面にぶい黄褐色10YR4/3、外面にぶい黄褐色10YR 5/3	○B地区トレンチ耕土 ○生駒西面底
	311	底 5.3 高 (2.8)	○上げ底の底部。	○外側タキを調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR 4/3	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西面底
	312	底 5.3 高 (6.1)	○上げ底の底部。	○外面タキを調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外裏黒色10YR1/7/1	○N地区
高杯B	313	口 18.8 高 (2.55)	○外反する口縁部をもち、体部との境に縫をもつ。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR 4/6、外裏青褐色10YR4/6	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西面底
	314	口 29.0 高 (3.2)	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くあさめる。 ○口縁部、体部との境に縫をもつ。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR6/4、外裏褐色2.5YR6/6	○B地区茶褐色シルト質粘土
高杯 脚付部	315	幅 12.4 高 (2.1)	○「ハ」の字形にひろがる底部。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR 6/6、外裏青褐色7.5YR6/6	○B地区包含層
	316	幅 12.7 高 (3.15)	○「ハ」の字形にひろがる底部。円孔が穿孔されている。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR7/4、外裏底白色2.5YR6/2	○B地区包含層
	317		○円柱状の脚付部。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内面共灰青褐色10YR6/2	○F地区上層 ○生駒西面底 ○底

弥生時代石製品

石 鏟	324	先 6.0 幅 4.6 厚 1.5 重 71.2	○円石に4ヶ所の鏟掛け用の切り込みを施した切口石鏟。			○B地区土壤 6
石 砧	325	長 (12.15) 幅 (9.5) 厚 (8.3) 重	○片面凹む。			○D地区土壤 9

土師器・須恵器・石製品

土 師 器	小皿	318 口 8.0 高 (1.85)	○やや丸底の底部から外方にひろがり、底を口縁部はそのままがねする。口縁端部は上方につまみ上げる。	○口縁部内外面コナゲ調整、体部内外面ユビナゲ調整を施す。	○内外両共灰青褐色10YR8/4	○A地区茶褐色シルト質粘土
	大皿	319 口 12.0 高 (2.4)	○丸底から内側しながら口縁部までつく。口縁端部は外反する。	○内外両共に風化のため詳細不明。	○内外両共にぶい黄褐色10YR7/4	○B地区第1層茶褐色シルト質粘土
須 恵 器	杯蓋	320 口 14.8 高 (3.8)	○天井部から口縁部にかける丸渠を帶びている。口縁端部はやや丸くおさめる。	○天井部と口縁端の接は凹縫をめぐらすことによって浮かびながらせたという感じのもの。 ○天井部外壁に圓軌ヘラヅリ調節。	○内面オリーブ色2.5GY6/6、外裏面オリーブ灰色2.5GY7/	○A地区第1層杯身
	杯身	321 底 7.4 高 (2.3)	○底部端に高台がひばり立する形で貼付けられる。	○内外両共に凹軌ナゲ調整を施す。	○内面灰白色7.5Y 7/1、外裏灰褐色7.5Y 6/1	○C地区茶褐色シルト質粘土
石 製 品	322 底 7.0 高 (4.3)	○丸底に直立状態の高台が貼付けされる。	○内外両共に凹軌ナゲ調整を施す。	○内面灰白色N7/、外裏灰褐色N6/	○調査地不明	
	323 高 (5.5) 幅 (2.6) 厚 2.0	○方形。 ○両端欠失。	○4面延展。	○灰黄色2.5Y7/2	○F地区	

V. 附編 上小阪遺跡第3次調査で採取した土壤の花粉分析報告

1.はじめに

上小阪遺跡は河内平野に位置する。河内平野は東を生駒山、西を上町台地によって囲まれている。今回の分析調査目的は、第3次調査区内で検出された弥生時代後期前半とされる溝（溝5）の覆土について花粉分析を行い、埋積土壤の花粉・胞子から溝使用時以降の周辺の植生や、溝内の環境に関する情報を提供することにある。

2. 試料

試料は、溝5遺構の断面から採取されたものである。（図1）。今回分析に使用した試料は、溝覆土のC・E・G・Iと溝直下堆積物（地山）のHの5点である。各試料の土質は、発掘調査時の記載によると全てシルト・粘土とされているが分析時に観察した結果ではいずれもシルト質砂であった。

3. 分析方法

分析方法は次の通りである。

各試料から湿重約15gの試料を秤量し、HF処理→重液分離→アセトトリシス処理→KOH処理の順に物理・化学処理を行い、試料から花粉・胞子化石を分離・収集する。処理後の残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成する。光学顕微鏡下でプレパラート全面を観察し、出現する化石の種類（TAXA）の同定・計数を行う。

検鏡結果は、一覧表（表1）と花粉化石群集分布図（図2）として表示した。その際の出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子が不明花粉を除いた総花粉・胞子数をそれぞれ基數として、百分率で算出したものである。

4. 結果

結果を表1・図2に示す。溝覆土のうち試料Iでは花粉・胞子化石が良好に検出されたが、他の試料では悪く、検出される化石の保存状態も良くなかった。

試料Iの花粉化石群集は、草本花粉の占める割合が高い。各種類では、木本花粉ではスギ属が最も高率で、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属、クリ属-シイノキ属がこれに次ぐ高頻度である。草本花粉・シダ類胞子ではイネ科が優先し、ガマ属、オモダカ属、イボクサ属、サンショウウモといった水生植物や栽培植物とされるソバ属を伴なう。また、出現したイネ科100粒について、栽培植物とされるイネ属の有無について調べた結果、栽培植物とされるイネ属が68粒検出された（この際のイネ属の同定は、ノマルスキ-微分干渉装置を使用して外膜の表面模様を観察し、発芽装置の形態、大きさなどを考慮しながら行った）。

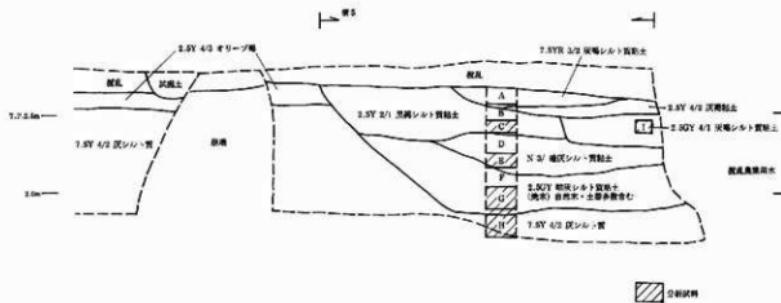
5. 考察

溝直下堆積物（地山）と溝覆土のうち試料Iを除く試料では、花粉化石の保存状態が良くなかった。これは、花粉・胞子が堆積した後に変質作用（化学的な酸化分解や土壤微生物による分解など）の影響を受けていることを示している。ここではその具体的な原因について言及できないが、これらの試料では検出された化石以外にも変質作用によって分解・消失した化石が存在した可能性が高い。したがって検出された化石だけが当時の植生について論じるには問題があり、ここではその検討を控える。ただ、これらの試料のうち、地山試料Hではヨモギ属が多産し、その中には花粉隕として検出されたものがあったことから、当時の調査地点周辺にはヨモギ属の生息する開けた場所が存在した可能性がある。

溝覆土上位の試料 I からは、栽培植物とされるイネ属が検出された。鈴木・中村（1977）によれば、花粉分析の結果は、イネ属比率（イネ科総数に対するイネ属の比率）が30%以上を示す層順では現在に近い集約度で稲作が営まれていた可能性が高いとしている。ここでは、検出されたイネ科全てについてイネ属の検討を検討を行ってはいないものの、イネ科100粒中にイネ属が68粒含まれていたことから見て、かなりの頻度でイネ属が含まれているものと判断される。栽培植物のソバ属が検出されることや、総花粉・胞子の中で草本花粉が占める割合が高いことを考慮すると、当時の調査地点近辺では稻作や畑作が行われていた可能性が高いといえる。また、オモダカ属、イボクサ属、サンショウウオなどの水生植物が併出することから、周辺には水湿地も存在したものと思われる。当時の稲作が水稲であったとすればこれらの水生植物は水田雜草として生育していた可能性もある。一方、後背山地などには、スギ属、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科などの針葉樹や常緑広葉樹のアカガシ亜属、落葉広葉樹のコナラ亜属などからなる森林が成立していたものと思われる。

引用文献

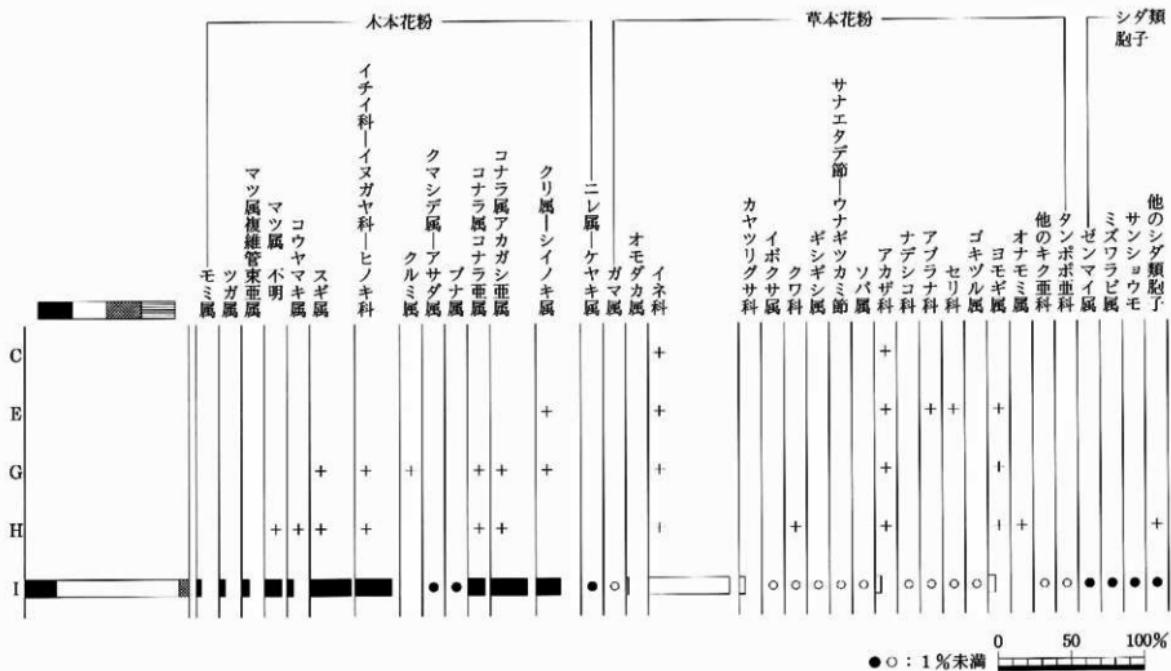
鈴木功夫・中村 純（1977）稲作花粉の堆積に関する基礎的研究.文部省科研費特定研「古文化財」「稲作の起源と伝播に関する花粉分析学的研究—中間報告—」（中村 純編）p. 1-10.



第22図 上小阪遺跡第3次調査の溝5の断面図および花粉分析試料の採取位置
(断面図および土層注記は発掘調査時の見解に基づく)

表2 上小阪遺跡3次調査の溝埋積物の花粉分析結果

種類(Taxa)	試料番号	C	E	G	H	I
木本花粉						
モミ属	-	-	-	-	-	6
ツガ属	-	-	-	-	-	7
マツ属複数管束亞属	-	-	-	-	-	10
マツ属(不明)	-	-	-	-	2	17
コウヤマキ属	-	-	-	-	1	8
スギ属	-	-	2	7	75	
イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	-	-	3	6	39	
クルミ属	-	-	2	-	-	-
クマシデ属—アサグ属	-	-	-	-	-	1
ブナ属	-	-	-	-	-	2
コナラ亞属	-	-	4	1	22	
アカガシ亞属	-	-	4	4	44	
クリ属—シイノキ属	-	1	1	-	27	
ニレ属—ケヤキ属	-	-	-	-	-	2
草本花粉						
ガマ属	-	-	-	-	-	3
オモダカ属	-	-	-	-	-	12
イネ科	2	2	11	12	544	
カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	42
イボクサ属	-	-	-	-	-	1
クワ科	-	-	-	1	3	
ギシギシ属	-	-	-	-	-	1
サナエタデ館—ウナギツカミ節	-	-	-	-	-	1
ソバ属	-	-	-	-	-	4
アカザ科	4	4	2	4	26	
ナデシコ科	-	-	-	-	-	1
アブラナ科	-	2	-	-	-	9
セリ科	-	1	-	-	-	1
ゴキヅル属	-	-	-	-	-	2
ヨモギ属	-	1	12	188	52	
オナモミ属	-	-	-	1	-	-
他のキク亞科	-	-	-	-	-	5
タンポポ亞科	-	-	-	-	-	8
不明花粉	-	-	2	5	22	
シダ類胞子						
ゼンマイ属	-	-	-	-	-	1
ミズワラビ属	-	-	-	-	-	1
サンショウモ	-	-	-	-	-	1
他のシダ類胞子	-	-	-	1	7	
合計						
木本花粉	0	1	16	21	260	
草本花粉	6	10	25	206	715	
不明花粉	0	0	2	5	22	
シダ類胞子	0	0	0	1	10	
總花粉・胞子	6	11	43	233	1007	



出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は不明花粉数を除いた総花粉・胞子数をそれぞれ基数として百分率で算出した。また、+は木本花粉が100個体未満の試料において出現した種類を示す。

第23図 上小阪遺跡3次調査の溝5埋積物の花粉化石群集の分布図

V. まとめ

今回の調査によって明らかになっている点を以下個条書きにしてまとめとする。

1. 弥生時代後期の遺構が、東西約150mにわたって多数検出された。今回の調査地の北方約120mの地点で行われた第4次調査において、東西約100mにわたって井戸・溝・柱穴等が検出され、同時に弥生時代後期に属す土器を中心とした遺物が多量に出土している。この成果を踏まえれば、現在の中央環状線の西約160m付近から東西150m以上、南北200m以上の範囲に居住域が広がっていることは確実である。
本遺跡が、弥生時代後期における大規模な集落であったことが確実となった。存続期間は、現在のところ出土土器から見て短く後期中頃の集落であった可能性が高い。
2. 溝などより出土した多量の弥生土器は、やや古い要素を残すものも認められるが西ノ辻D・E式に併行するものと考えられ、從前この時期の一括資料に乏しかった平野部において重要な資料となる。遺構出土の土器にしめる生駒西麓産の割合は、約5割である。この時期の山麓の遺跡からは他地域産の土器は余り出土しないことからすればかなりの高率ということができる。
今後、山麓部の土器との比較検討を進めることで多くの知見が得られると考える。他地域との関係では図251の妻は、角閃石を含み、山陽地方の形態・調整をもつものであり搬入品として注目される。また、この時期には珍しい石皿や石鍤が出土したことは、河内湖南辺に位置した本遺跡の生業を考えるうえで興味深い。
3. 包含層中より庄内式土器が少量出土した。したがって包含層はこの時期に形成されたと考えられる。この時期の土器は、第2次調査でもわずかな量が出土している。遺構は未検出ながら当時の集落が付近に存在したと考えられる。しかし、遺物の出土量から見て今回の調査地は周辺部にあたると思われる。
4. 次に述べる奈良時代の遺構のベースになっている層より古墳時代後期の土器が少量出土した。古墳時代中期から後期にかけての巨摩庵寺・山賀遺跡において小形低方墳が検出されていることからも、集落の存在が付近に予想されるが具体的な場所は明らかでない。出土遺物の量などから見て周辺部にあたることは間違いない。
5. 奈良時代と考えられる遺構と遺物を検出したことから、第1次調査の結果と併せ今回の調査地西半部分からさらに西に、この時代の集落が存在するのは確実である。実態の解明は今後の調査に期待したい。
6. 花粉分析の結果からは、弥生時代後期において調査地点周辺はヨモギ属が生える開けた地でありまた水湿地に近い場所にあたるとされた。また、稲の集約的な栽培や畑作物であるソバの栽培が明らかにされている。
以上をまとめれば、從来調査があまり実施されていないものもあって余り注目されていない本遺跡が、平野部における弥生時代後期の集落の動態を考えるうえで、欠くことのできない遺跡であることを今回の調査を通して明らかにしたと言えよう。

注1 上野利明「上小阪遺跡第4次調査」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告—1991年度』財團法人東大阪市文化財協会 1992年

図 版



E～I 地区作業風景（西より）



第1～3 トレンチ完掘状況（西より）



第1～2 トレンチ北壁断面（南東より）



第1～2 トレンチ北壁断面（南東より）

図版3 土層断面



第3 トレンチ落ち込み2北壁断面（南西より）



第2 トレンチ北壁断面（東より）



第2 トレンチ北壁断面ピット26検出状況（南より）



第2 トレンチ北壁断面土壤18検出状況（南より）



A地区北壁断面（東より）



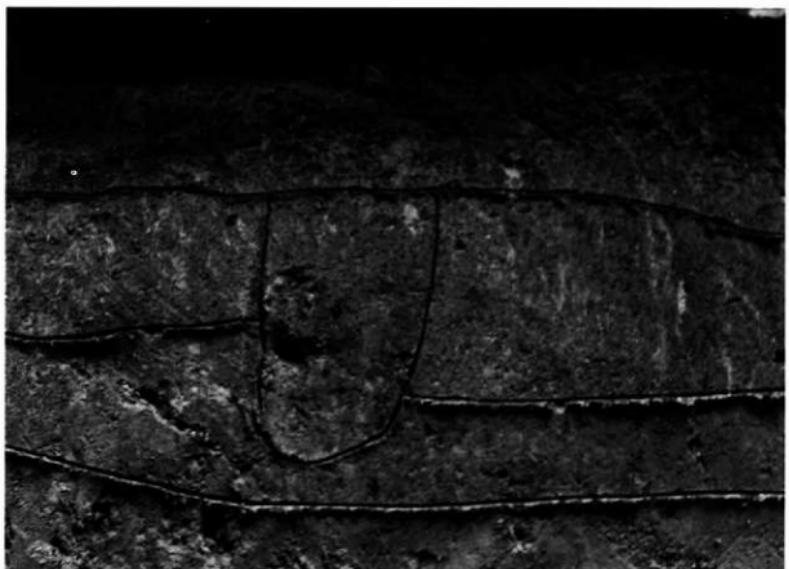
B地区北壁断面（南より）

図版 6

土層断面



D地区北壁断面（南西より）



D地区北壁断面ピット検出状況（南より）



D・E地区北壁断面（西より）



D・E地区北壁断面（南より）

図版 8

土層断面



F地区北壁断面（南より）



G地区北壁断面（南より）



H・I地区北壁断面調査5検出状況（南より）



J地区北壁断面（東より）



J地区北壁断面（南より）



J・K地区北壁断面落ち込み4検出状況（南より）



K・L地区北壁断面
(南より)

L地区東壁断面(西より)



図版 12

遺構（弥生・奈良時代）



第1～3 トレンチ第1遺構面遺構検出状況全景（東より）



第1～2 トレンチ溝3検出状況（北より）



第1 トレンチ土壤10
検出状況（南より）



第2・3 トレンチ
第1 遺構面土壤17・18、
第2 遺構面土壤16
検出状況（南西より）



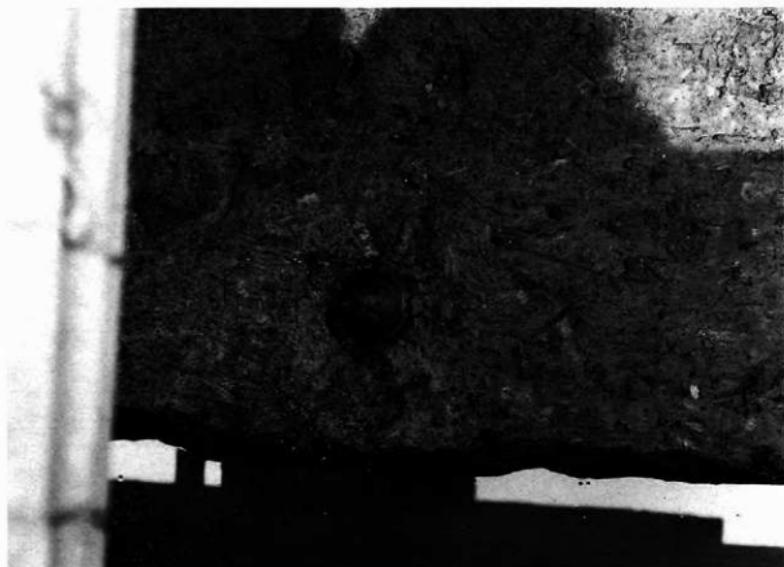
第1 トレンチ溝4 掘出状況（南より）



第2 トレンチ第2 遺構面土壤19・20、ピット検出状況（南東より）



第3 トレンチ落ち込み2 挿出状況（東より）



第3 トレンチ落ち込み2 弥生土器出土状況（南より）



A地区土壌1検出（南より）



B地区溝2弥生土器出土状況（南より）



E～I地区第1遺構面
遺構検出状況（西より）

E地区第2遺構面溝12、
ピット40・41検出状況
(南より)





F地区第1遺構面土壙28、
ピット34~38検出状況
(南より)



F地区第1遺構面
溝11検出状況 (南西より)



F地区第2遺構面土壙29、溝13・14検出状況（南より）



F地区第2遺構面ピット42・43、土壙50、溝14検出状況（南東より）



G地区第1遺構面
土壤26・27、
ピット32・33検出状況
(南より)



F・G地区第1遺構面
ピット34~38、土壤28、
溝10検出状況(南西より)



G地区第2遺構面土壤32、

ピット47、溝15

検出状況（南より）



G・H地区第1遺構面

ピット30・31、

土壤23～25、溝9

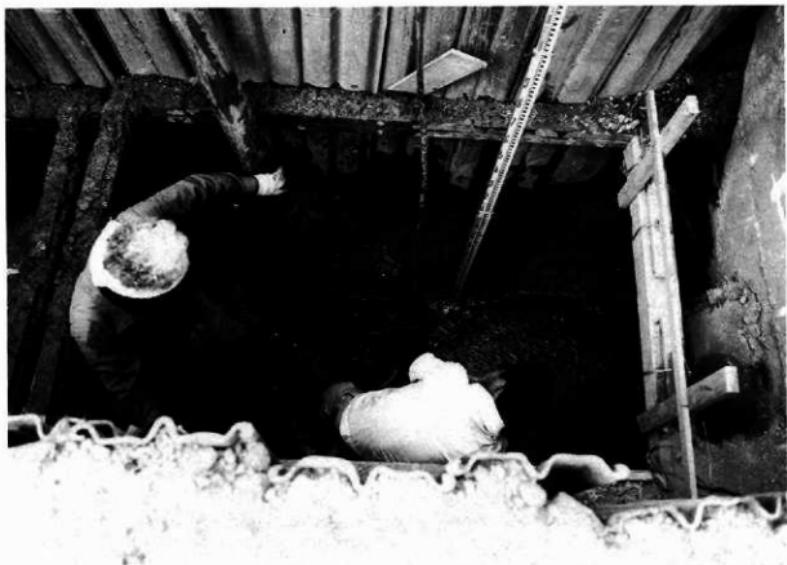
検出状況（南西より）



H地区第1遺構面溝
他検出状況（南西より）



H地区第1遺構面溝5
弥生土器甕出土状況
(南より)



H地区第1遺構面溝5調査風景（南より）



K・L地区調査状況（南西より）



13



15

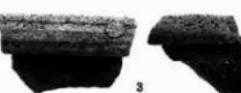
壺（13・15）



1



2



3



20



8



9



10



11



12



14



17

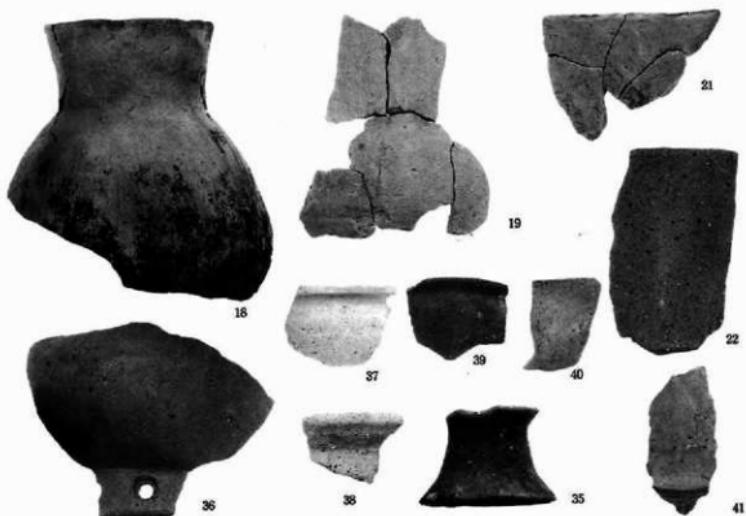


16

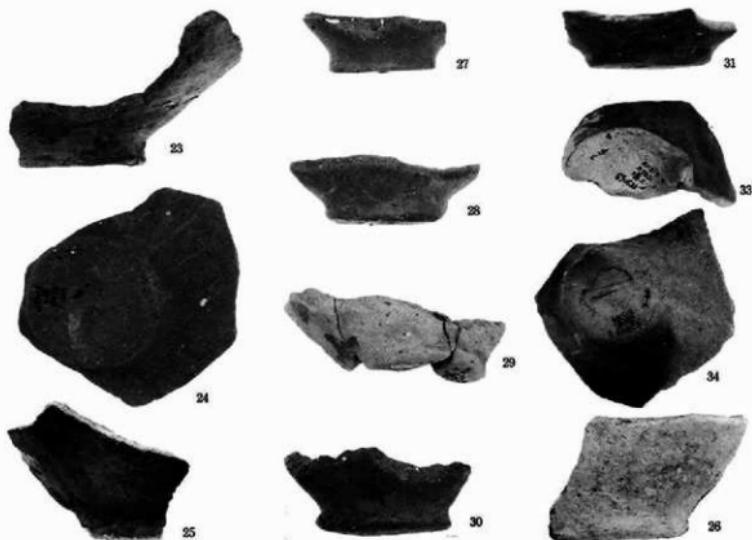


12

壺（1～12・14・16・17・20）



壺 (18・19・21・22) 鉢 (35~40) 手培形土器 (41)



底部 (23~31・32・34)



43



57



82

甕 (43・57・82)



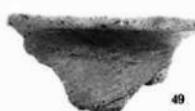
42



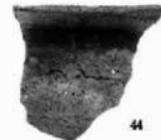
56



58



49



44



54



53



50



45



55



51



46



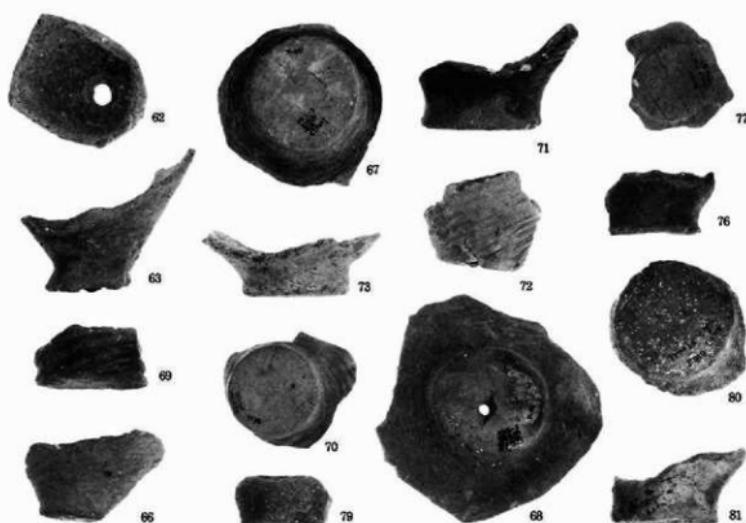
59



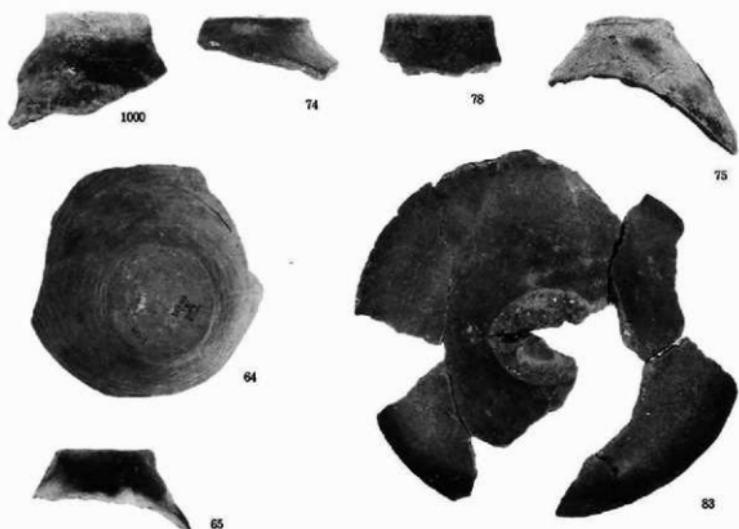
60

甕 (42・44~56・59~61)

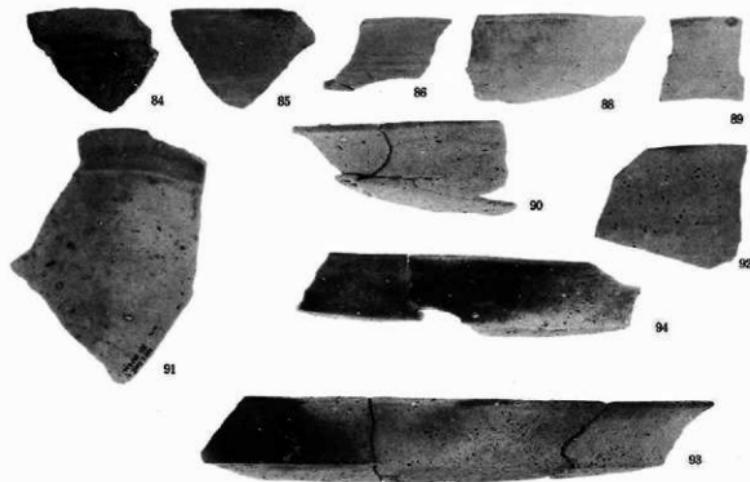
圖版 27 満 2・4・5・11・12出土遺物（弥生時代後期）



底部 (62・63・66~73・76・77・79~81)



麥蓋 (64・65・74・75・78・83・1000)



高杯 (84~86・88~94)



高杯 (95~97・99~105)

図版29 溝5、落ち込み1出土遺物（弥生時代後期）



87



111



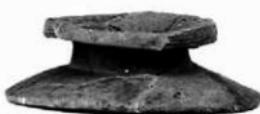
98



118



110

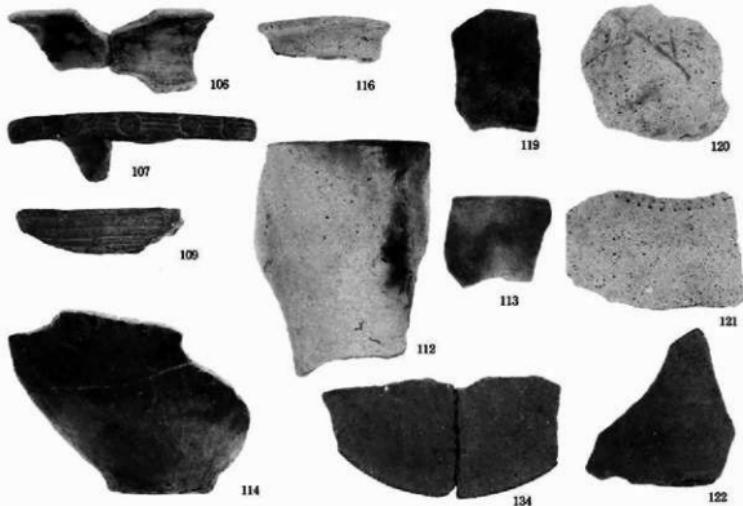


117

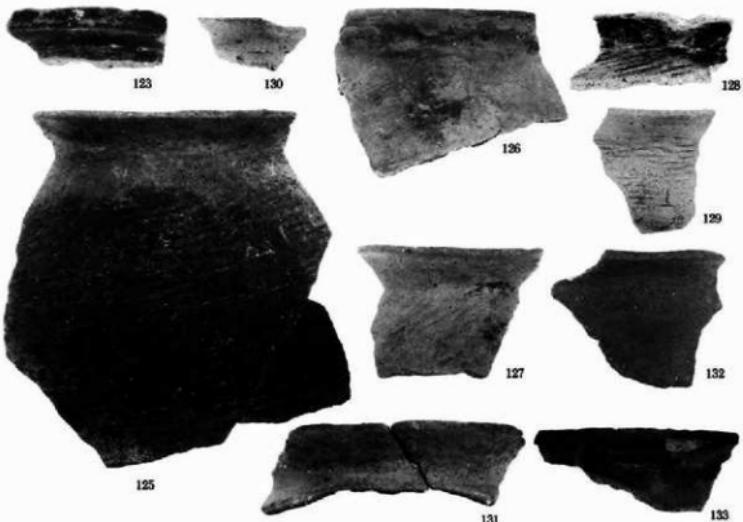


124

壺 (108・110・111・117・118) 壺 (124) 高杯 (87・98)

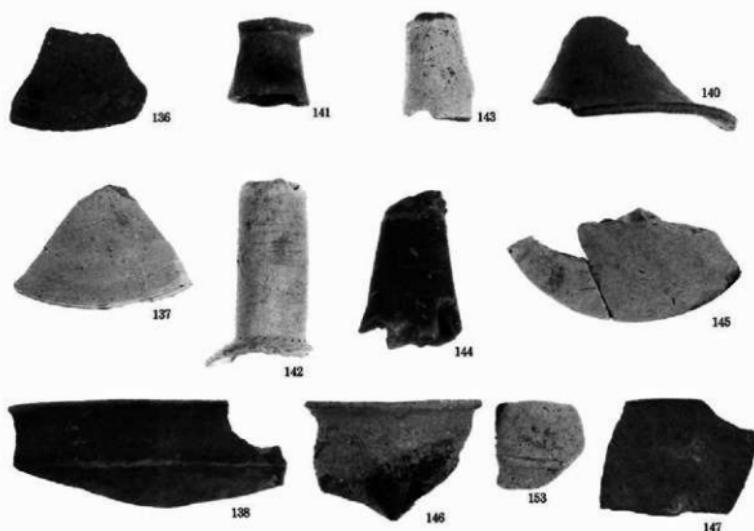


壺 (106・107・112~114・116・119~121) 器台 (109・122) 壺蓋 (134)

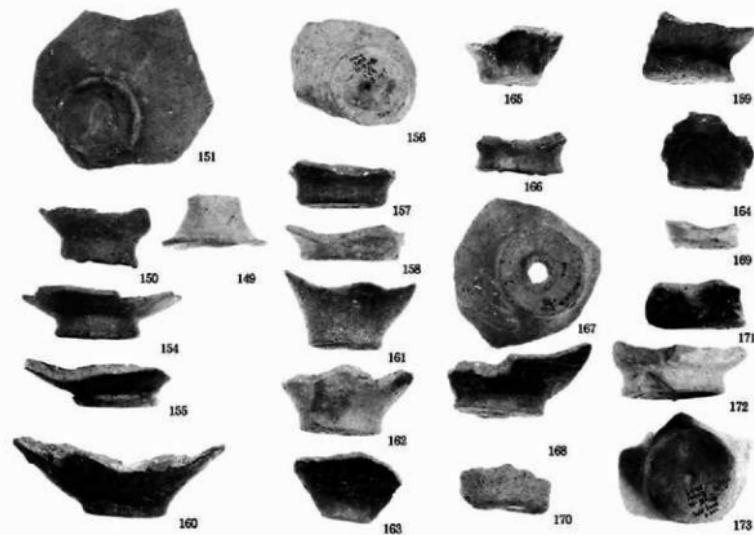


壺 (123・125~133)

図版 31 落ち込み 1 出土遺物（弥生時代後期）



高杯（136～138・140～145）鉢（146・147）手焙形土器（153）



鉢（149～151）底部（154～173）

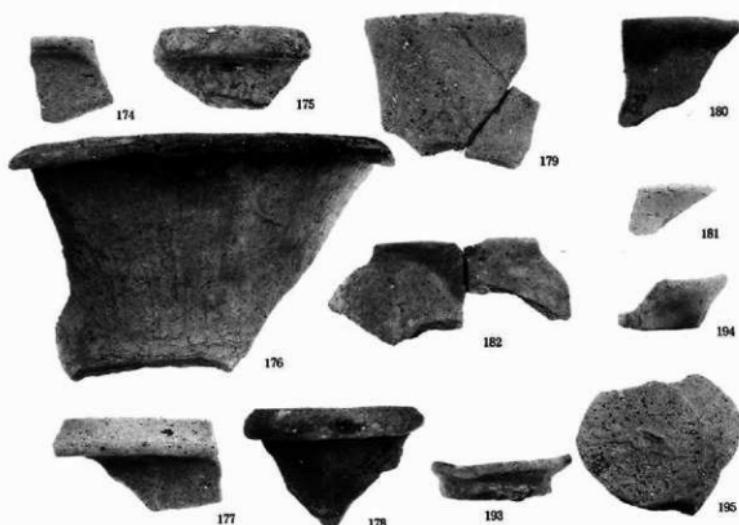


壺 (15・111・118) 埋 (43・82) 鉢 (148)

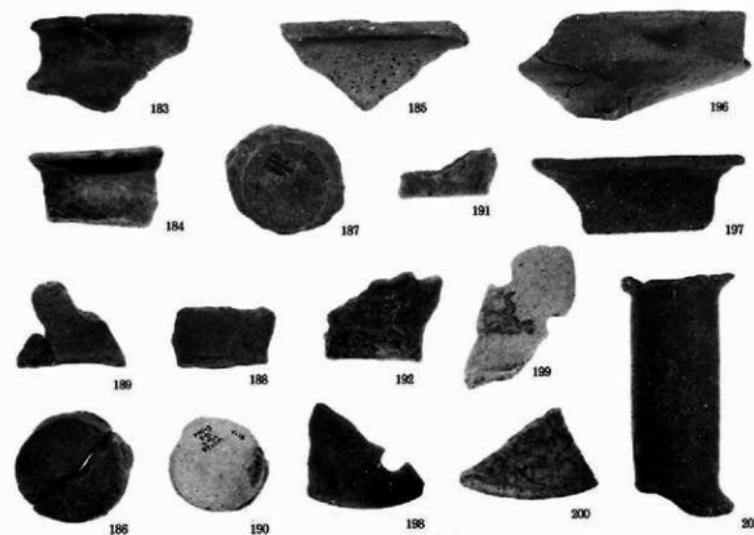


高杯 (135) 鉢 (148・152) 器台 (139)

図版 33 土壙 5・6・7・9・27、ピット39出土遺物（弥生時代後期）



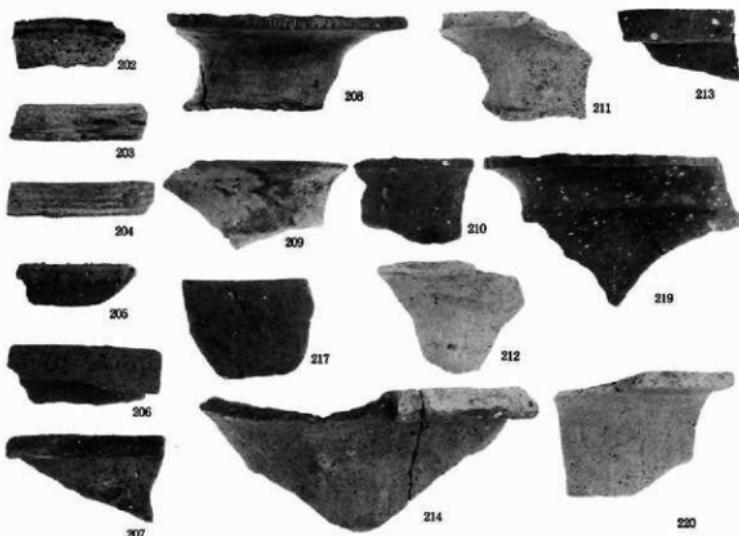
壺 (174~182) 底部 (193~196)



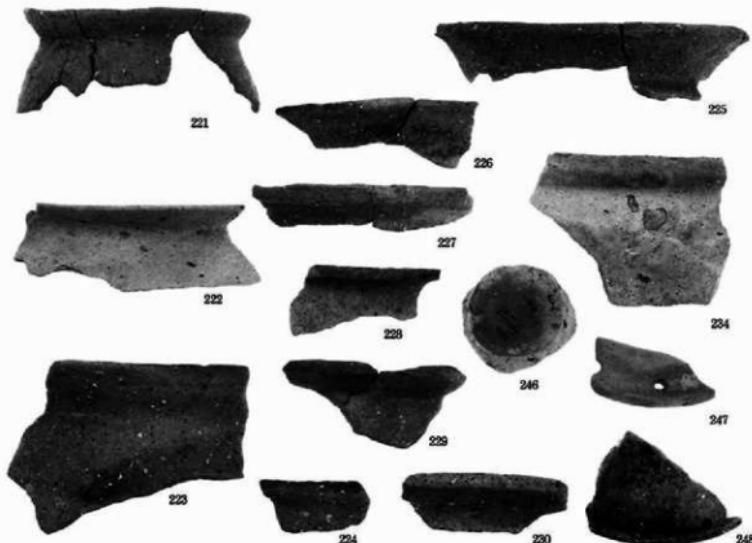
壺 (183~185) 高杯 (196・198~201) 器台 (197) 底部 (186~192)

図版 34

包含層出土遺物（弥生時代後期）

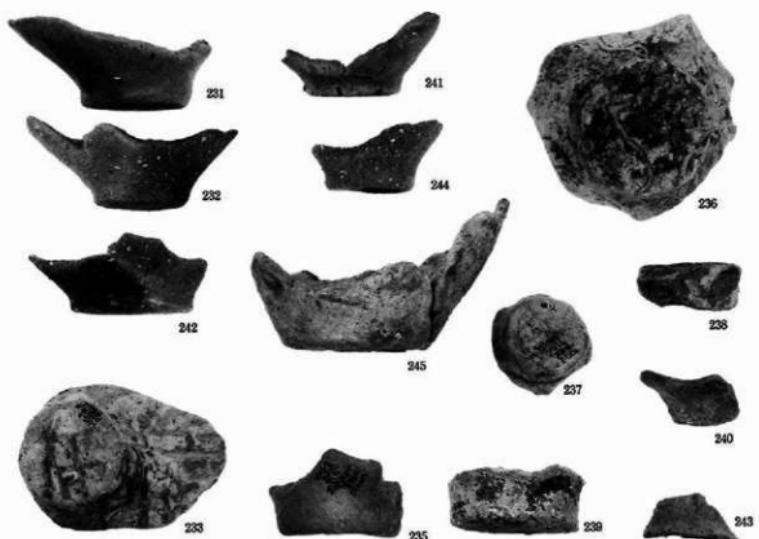


壺 (202~214・219・220)

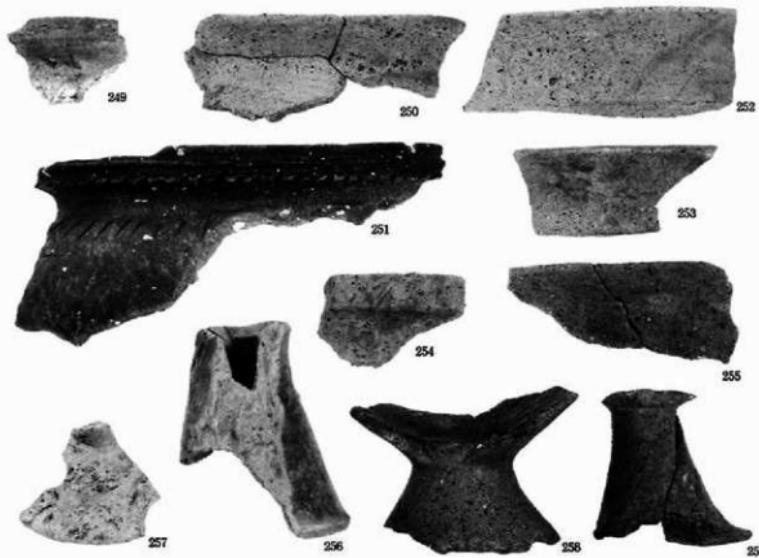


壺 (221~230) 鉢 (234) 壺蓋 (247・248)

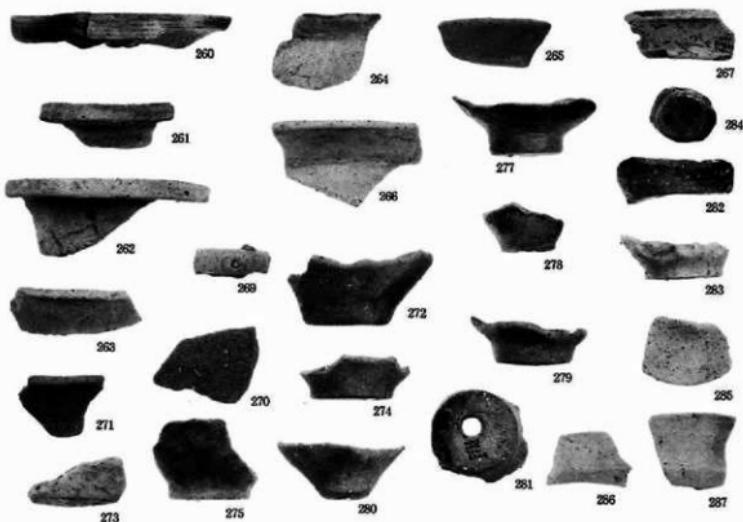
図版35 包含層出土遺物（弥生時代後期）



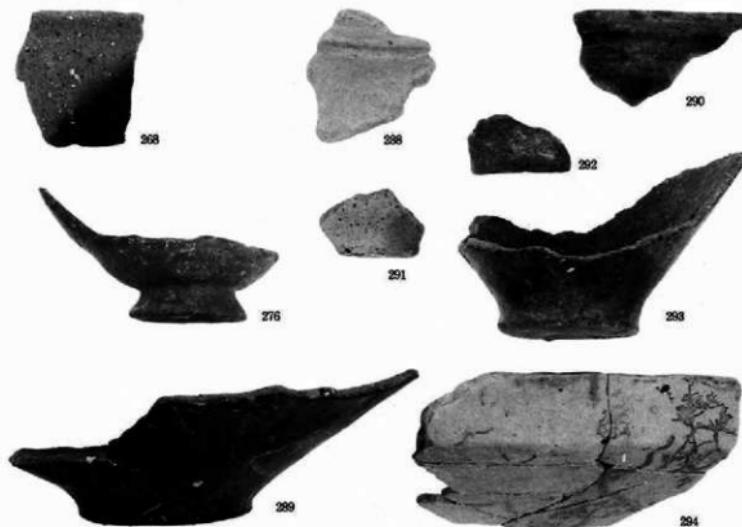
底部 (231~233・235~245)



甕 (249~251) 高杯 (252・253・256~259) 脼 (254・255)

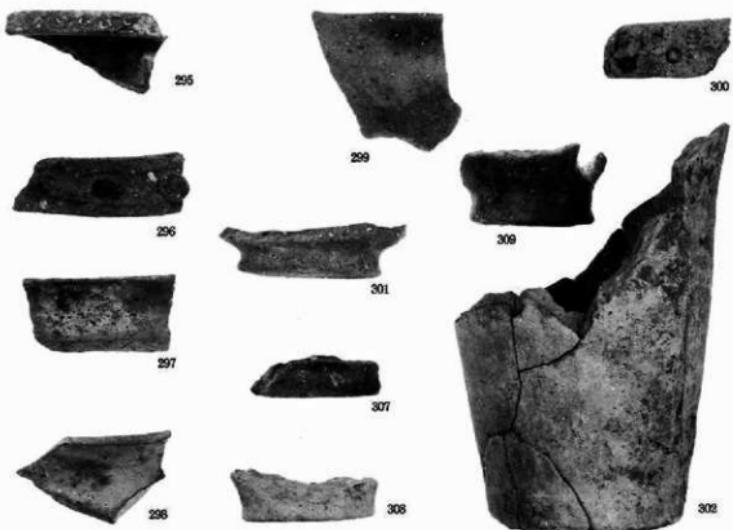


壺 (260~263・269~271) 見 (264~266) 高杯 (285~287) 蕎台 (267) 麥蓋 (284) 底部 (272・274・275・277~283)

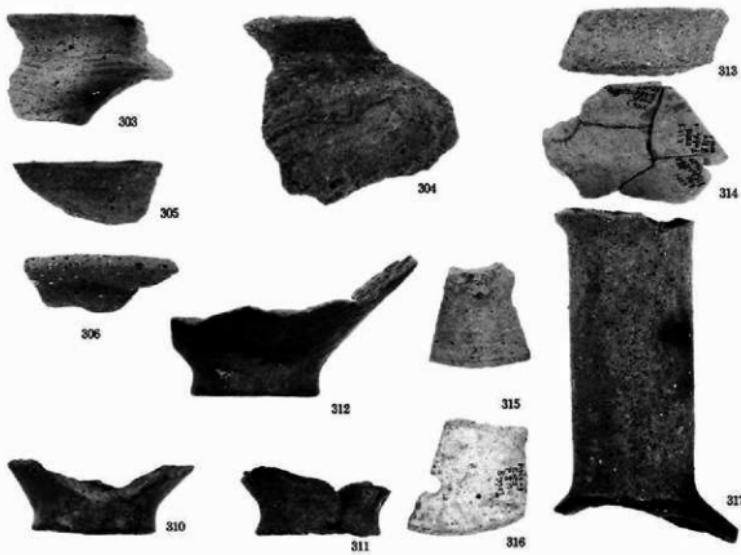


壺 (288) 見 (290) 鉢 (268・276) 高杯 (294) 底部 (289・291~293)

図版 37 包含層出土遺物（弥生時代後期）



壺 (295~300・302) 底部 (301・307~309)



甌 (303~306) 高杯 (313~317) 底部 (310~312)

圖版 38

包含層出土遺物（弥生時代後期・古墳・中世・石器）



318



319



321



320

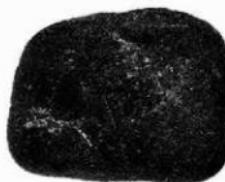


322

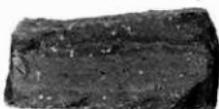
土師器底（318・319）須恵器杯蓋（320）杯身（321・322）



323

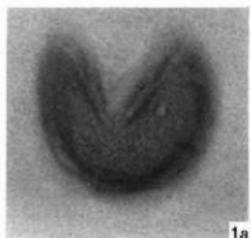


324



325

砥石（323）石鍤（324）石皿（325）



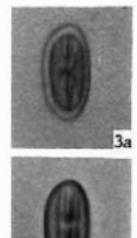
1 a + b スギ属



1a



1b

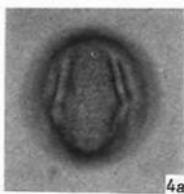


3a



3b

2 イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科
3 a + b クリ属-シノキ属

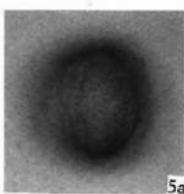


4 a + b アカガシ亜属

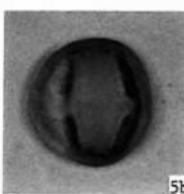


4a

4b

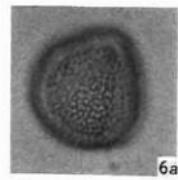


5 a + b アカガシ亜属

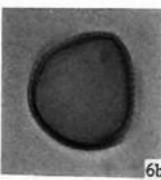


5a

5b

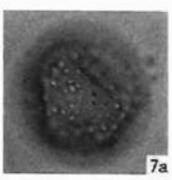


6 a + b ガマ属

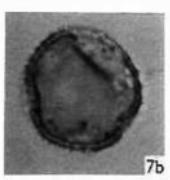


6a

6b

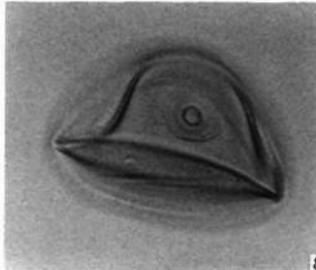


7 a + b オモダカ属



7a

7b

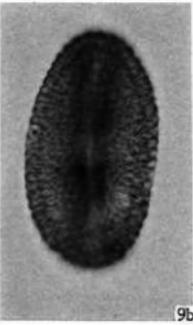


8

8 イネ科



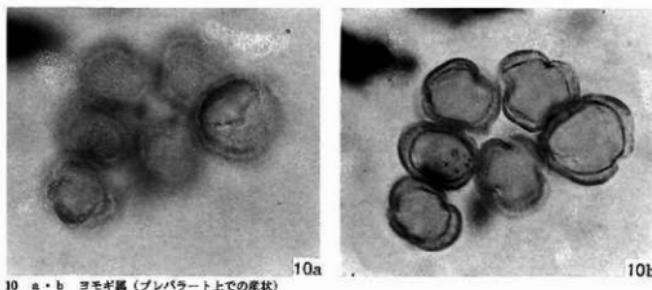
9 a + b ツバ属



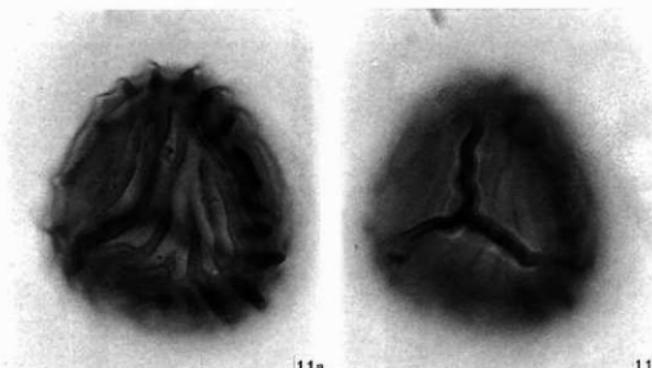
9a

9b

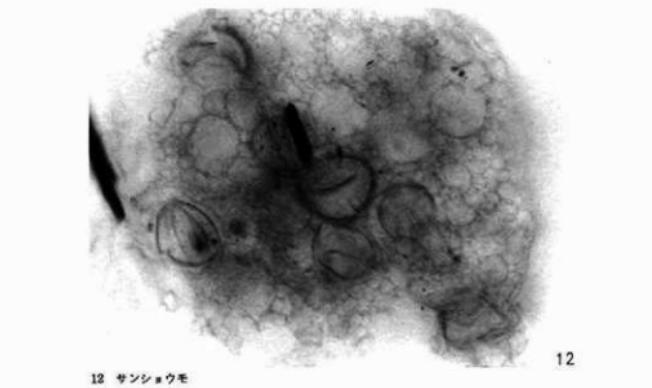
50μ



10 a・b ヨモギ属（プレパラート上での産状）



11 a・b ミズワラビ属



12 サンシエウモ

100μ

報 告 書 抄 錄

ふりがな	かみこさかいせきだい じはっくつちょうさほうこく				
書名	上小阪遺跡第3次発掘調査報告				
副書名					
巻次					
シリーズ名					
シリーズ番号					
編著者名	福永信雄				
編集機関	財団法人 東大阪市文化財協会				
所在地	〒577 東大阪市荒川3丁目28-21				
発行年月日	1998年3月31日				
所収遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
上小阪遺跡	大阪市若江西新町 4~5丁目	27227	1988年6月5日 ~9月25日	250m ²	下水道管理設工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
集落	弥生時代後期 奈良時代	溝・土壙・ 柱穴	弥生土器・石皿・石錘・ 須恵器・土師器	弥生時代後期中 ごろの一括資料	

上小阪遺跡第3次発掘調査報告書

1998年3月31日

発行所 財団法人 東大阪市文化財協会

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所